

392.1
Ka86



* 0056443000 *

0056443-000

392.1-Ka86ウ

我等は斯くして皇土を衛らん

加藤義秀・著

文松堂

昭和19

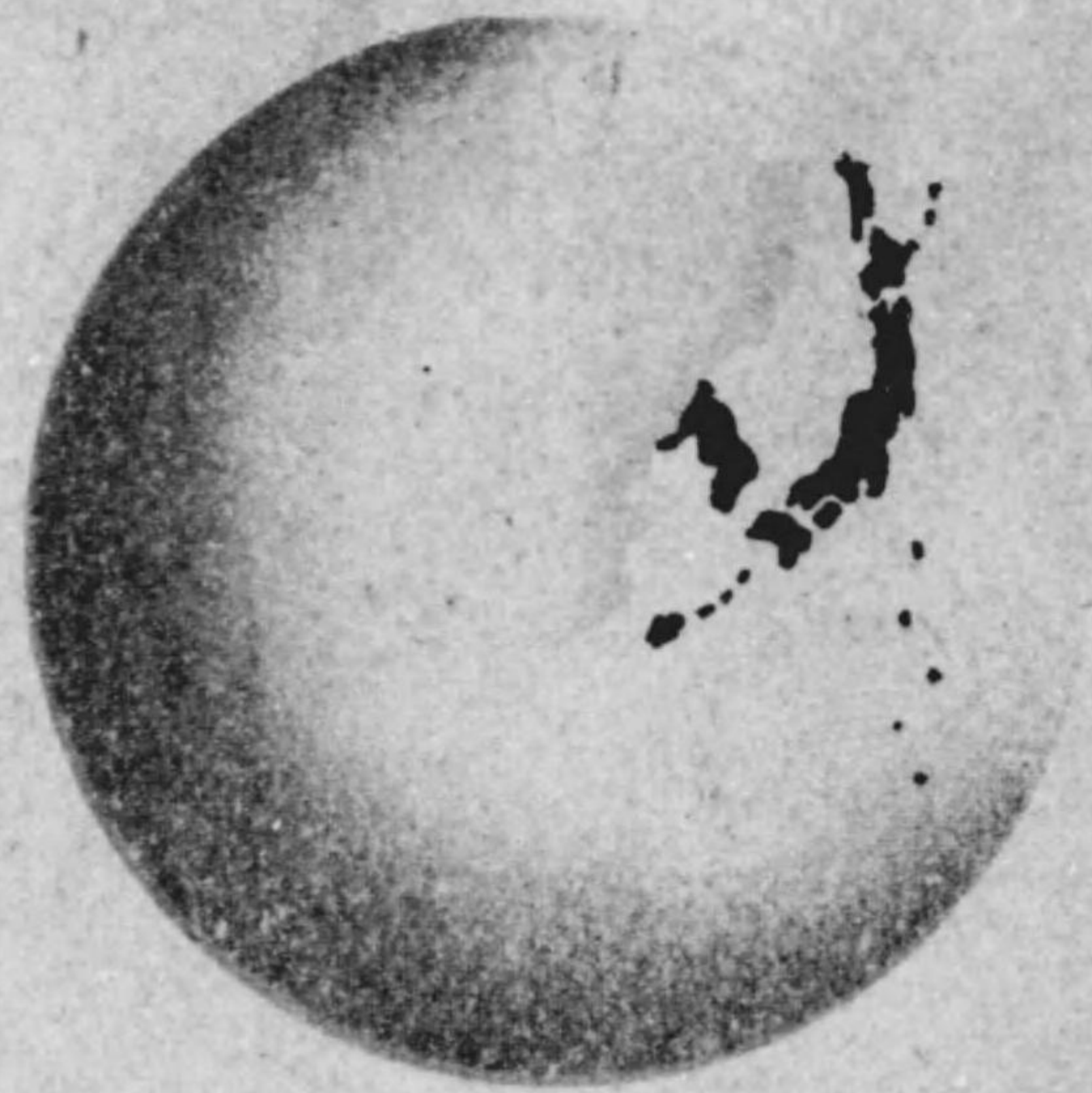
AJC

株式会社文松堂

392.1
KA86

てしく斯は等我 んら衛を土皇

速佐大秀義藤加 謀參部令司總衛防



社會式株版出堂松文

別
392.1
KA86



防衛總司令部參謀

加藤義秀大佐述

我等は斯くして皇土を衛らん

版社會式株版出堂松文



1002
35 (E)

目次

第一、國土防衛の重要性……………一

一、大東亞戦争の本質について……………一

二、今後の戦局は如何に推移するか……………二

三、空襲は活潑化する……………三

四、國土も決戦場である……………三

五、戦争國家は防衛力が強靱でなければならぬ……………三

六、防空は決戦的本格的空襲に對し萬全を期さねばならぬ……………四〇

第二、皇土は如何にして防衛するか……………四六

一、國土は戦闘配置につき優秀な戦闘活動が出来なければならぬ……………四六

二、國民は優秀な戦闘員になり且つ戦闘に

便なる様に組織化されなければならぬ

三、生活を原始的に還元せよ

四、防衛精神を強化せよ

五、待つあるを待め、油断は大敵である

六、常在戦場の心構へを確固たらしめよ

七、必勝の信念を堅持せよ

八、防空は自ら工夫せよ、又空襲の體驗を活かさなければならぬ

九、空襲によつて崩れるのは内部にある。特に思想的崩壊を戒めよ

十、空襲の影響による抗堪力を強靱たらしめよ

十一、生産防空を重視せよ

十二、空襲被害時に處する心構へに注意せよ

十三、空襲の直接被害のない地域の者の動搖を戒めよ

四

五

五

五

三

三

七

六

八

九

一〇

一六

十四、一億總力を發揮しなければならぬ、婦人にも重要な役割がある

第三、一億總蹶起皇土の防衛に邁進せん

二八

三三

我等は斯くして皇土を衛らん

戦争の本質を
正視せよ。

第一、國土防衛の重要性

一、大東亞戦争の本質について

最近に於ける戦局の推移に對し、動もすれば國民の極めて一部分に何とな
く疑懼の念を抱くやの傾向がないでもない。大東亞戦争開始以來作戦が好調
であつたのが、如何にも最近不利になつた様に感じ色々心配してくる。勿論
國民の大部分は更に戦意を強くし、飽く迄戦争完遂に精進して居るのではあ
るが、一方においては生活の窮屈を訴へたり、また戦争に對する倦怠を云々
する者も出て來つゝあるやうである。併しながら、かういふ戦の推移といふ
ものは、大東亞戦争開始の當時から既に考へられて居た筈である。この戦は
皇國興亡を賭しての戦であるとか、長期戦であるとか、或はまた空襲は必

至であるとかいふことは、口酢つばく叫ばれてきたのである。ところが緒戦の戦果が餘りに偉大であつたがために、その後の戦局の推移といふものも、なか／＼さういふことにはピンと來なかつた。現在の戦局といふものは、何も之が急轉直下變化したのでも何でもないのであつて、開戦以來いはれたいはゆる皇國隆昌を決するの戦、長期戦、空襲必至といふ其の姿が現實化して來たまでである。開戦當時、いろ／＼いはれたことを振り返つて見れば、かういふことの認識は十分につく筈だが、吾々は今戦局眞に重大なる秋に直面し、更に決心を新たにする爲に、此の戦の本質といふものをもう一べんしつかり反省して見る必要があるのではないかと思ふ。大東亞戦争は防衛戦である。もと／＼我が日本の戦は、何れの場合においても侵略的な戦といふものはないのであつて、我が國の存立が脅威され、そこで止むに止まれぬ場合に起ち上つてやるのが日本の戦である。即ち、常に防衛的本質を持つて居るので、我が國の戦が正義の戦といはれてゐる所以である。日清戦争、日露戦争

大東亞戦争は
防衛戦である

國民總奮起の
日清、日露の

の場合においても、當時の清國或はロシアといふものが滿洲を侵略し朝鮮にはいつて來る、そして斯ういふ現實の姿は國民の目にはつきり映つてゐた。これはいかんといふので、これに對し全國民は敢然として起つた。それだから、その場合には勝敗を度外視してゐる。勝つか敗けるかわからないが、このまゝ放つておいたら日本は潰れるだけだ。かういふことで起ち上つてゐるから、國民の結束、國民の戦争意志といふものは極めて強かつた。大東亞戦争では、アメリカ、イギリスが日本に對して攻めて來た形といふものが、日清・日露の當時のやうにはつきりした現實の姿として、國民の眼には映つて來てゐなかつた。即ちそれが經濟攻勢、外交攻勢であつたがために國民の目にはつきり映らなかつたのである。もう一つは開戦前に於て我が國では對支政策の關係もあつて、米英といふものをなるべく敵に廻したくない、出來ることならこれと妥協して支那問題を納めたい、速かに平和的解決をしたいといふことで國民を指導してをつたため、ます／＼もつて大東亞戦争開始當時

米英の經濟攻
勢、外交攻勢
に始る大東亞

における英米の日本に對する侵略的な攻勢の姿ははつきりしなかつた。それ
にまた大東亞戦争の作戦開始では、日本が機先を制して、どん／＼戦果を擧
げていつたため、あたかも日本が戦を仕掛けたやうな形になつてしまつた。
さうして、國民はどうかといふと、日本がアメリカをやつつけてゐるんだと
いふ錯覺に陥つてしまつた。これは實に甚だしい間違ひであつて、大東亞戰
争開始前における情勢といふものは、日清・日露戦争當時と同じやうに、ア
メリカ、イギリスがどん／＼日本に攻め寄せて來てをつた。このまゝ放つて
おいたら日本は潰れる、これではいかぬ、敵に噛みついて死中に活を求めよ
う、これが大東亞戦争の本質であつて、この認識をはつきり持てば、結局わ
れ／＼はアメリカに攻められてゐるのを防いでゐる。かういふ信念がはつき
りついてくる。さうすれば、現實の戦の姿といふものは、いはゆる防衛戦の
本質を現はして居るまでである。當時における經濟的或は外交的なアメリカ
の壓迫の格好といふものが、今武力壓迫の姿に變つて來ただけであつて、本

死中に活を求
めたる大東亞戰
争

敵が喰ひつ
て來たのを防
ぐ

質においては何等變りがない。アメリカは當時軍備の充實が出來てゐなかつ
たために、武力的な手段が遅れただけであつて、これからは大東亞戦争の本
質にはいつて、われ／＼は防衛戦をやる。かういふ工合に考へるべきだと思
ふ。さうすれば、アメリカが我が國を攻めて來てゐることがよくわかると思
ふ。俗にこの戦は喰ふか喰はれるかの戦であるといはれてゐるが、よく考へ
て見れば我が國はアメリカを喰ふ氣持は一つもない。喰はんとしてゐるのは
アメリカだ。アメリカが我が國を喰はんとしてゐる。だからこの戦といふも
のは我が國が喰はれるか喰はれずにすむかといふこの二つしかない。我が國
がアメリカを喰ふといふことは絶対ない。だから戦の終結といふものは、ア
メリカが我が國を喰ふことを諦めるか、諦めないかといふことによつて決定
する。アメリカが我が國を喰ふことを諦めるといふ要件は何か。これは結
局、アメリカが日本を喰はんとしたけれども、齒が立たなかつたといふこと
でなければならぬ。齒が立たずに、却つて齒が壞れ、痛い目に逢ふだけで、

敵の侵略を諦
めさせる要件
は何か

日本を喰はんとしても、とても喰ふことは出来ない、さういふことをアメリカが悟つたら戦は終る。だから、われ／＼は如何にしてアメリカの齒が立たぬやうにするか、斯様に考へなくてはならぬ。齒が立たぬやうにするためにはいろ／＼あるが、作戦的には攻勢的な手段もとるのである。攻勢的な作戦は、何も我が國がアメリカを侵略するといふのではなく、アメリカが喰はんとしてゐるから、これをこつびどい目にあはせてやる、痛い目にあはせて手を引かせるといふことである。それから、國民の頑張りが大切である。アメリカに噛みつかれるのは、日本國民なのであるから、これが最後まで頑張り通さなければならぬ。國民が石になる。さうすれば齒が立たなくなるのである。この戦といふものは、アメリカが手を引くまでは絶対にやめることは出来ない。さういふ本質をもつてゐると考へねばならぬ。さうすれば、現在の如き戦局といふものは、當然此の戦の本筋にはいつて來てゐると考へることが出来る。

痛い目にあはせて手を引かせよう。

この戦争は敵が手を引くまでやめることが出来ない。

反攻か侵攻かを區別せよ。

敵の反攻といふことが頻りに云はれてゐるが、あれも大いに考へねばならぬと思ふ。作戦上反攻といふことであらばいゝのであるが、戦争全般の觀念から反攻といふやうな氣持はいかぬと思ふ。大東亞戦争の本質からいへば、敵が侵略して來てゐるのであつて、これに對し寧ろ日本が反攻してゐるのである。われ／＼が弱者として反攻してゐるので、敵は強者として侵攻して來てゐるのだ。戦の本質をはき違へ思ひ上つて、こつちが敵を攻めてゐるやうな氣持であると、反攻反攻といふて軽い氣持で取扱ふ様になる。敵の反攻ではなく敵は侵攻して來てゐる。我々は之を必死になつて防衛して居るのだといふ、此の戦争の本質に徹しなければならぬ。

二、今後の戦局は如何に推移するか

それでは一體今後戦局は如何に推移するであらうか。大東亞戦争開始以來二年餘、また支那事變始つて以來數年になるので、戦争は早く終つてもらひ

戦局の見透しといふこと。

たいといふ考へは誰しももつてゐる。そこで、一體戦争終結といふものに對して如何に期待が出来るか。如何なる時期に戦争が終結するか。かういふ問題も一應考へて置くことが必要である。さうしないと今後の戦局に對する覺悟が決らぬ。

戦といふものが終結するには、終結の條件が必要だ。戦争終結の條件は何か。かういふことを考へてみると、第一には交戦國の何れかが戦争目的を達成するといふことである。大體戦争といふものは、どこの國においても起す以上は、戦争目的といふものがある。そのどつちかの國が戦争目的を達成したことになるれば、戦は自然に終りになる。それでは、我が國とアメリカとは何れかが現在において戦争目的を達してゐるであらうか。我が國は前に述べた通り、アメリカの東亞に對する侵略の考へを諦めさせよう、さうして、東亞共榮圏といふものを建設しよう。斯ういふことが戦争目的だ。即ち、アメリカをしてこの東亞に對する侵略の野望を棄てさせるといふことになる。

ところがその日本の考へてゐる戦争目的といふものは、結局アメリカが戦争意思を抛棄するまで戦はなければ、之を達成し得ない。一方アメリカの戦争目的といふものは極めて不純なものではあるが、結局日本を潰してしまふといふことだ。アメリカは帝國主義を打倒するとか、日本を三流國にしてしまふとか、何とかいつてゐるが、結局日本といふものを無力化してしまふ、將來日本民族をして世界の槍舞臺に出られないやうにしようと思つて居る。現在の状態においてアメリカが手を引いたら、日本は東亞の指導者として確固不拔の地位を築いてしまふから、あくまで日本を潰してしまはなければならぬといふのが、アメリカの戦争目的である。兩者はかういふ目的をもつてゐるので、そのケリのつくのは兩方とも、とどの詰りまで戦ひ、どつちかが斃れ、そしてはじめて之を求め得る。こゝまでゆくべきである。或る強國が弱い國に對し侵略を企圖するやうな場合は、たとへばどこの領地をとつてやらう、どこが欲しいといふことで戦を始め。さうするとその領地なり土

地を取つた以上は兵を收める。そして戦は終る。これが侵略戦争の一つの型だ。ところが、今度の戦では頑強な日本が止むに止まれず抗戦してゐるのだから我が國の方からは手を引けない。我が國が手を引けば滅亡だ。アメリカは力をもつてゐるから、結局日本を潰すまでやつて来る。かういふことになつて、昔の強國が弱國に侵略的に戦を始めたのと違つて、戦争目的達成といふことは兩方ともまだなか／＼だ。勿論この戦争目的達成といふことは、必ずしも完全にその目的を達成したといふことでなくても、とにかく交戦國が或る程度戦争目的を達成した氣持に満足すれば、それで終るといふこともあり得る。百パーセントの目的達成とはゆかないが、この邊で我慢が出来るといふことになれば、その時の他の原因とも關聯をして戦争終結が期待出来ないこともない。ところが、かういふ状態になるには、兩方が相當戦つてへ／＼にならなければならぬ。へと／＼になれば戦争目的の水準が低下してくる。今までは百パーセントのことを考へて戦争をしたけれども、疲れて

まだ容易に戦争は終結しない

くるとまあ五十でもい／＼といふやうに目的が低下してくるものである。兩方とも戦争目的を完全に達成しなくても、他の方面の原因とも關聯して戦争が終ることにもなるが、それでは現在我が國とアメリカとは兩方ともへと／＼になるまで戦つたかといふと、この點まだ／＼その時期に到達してゐないのである。

第二の條件は武力決戦の成否である。武力決戦の終了といふことが、まづ一つの戦争終結の前提條件となる。今まで總力戦、總力戦といつてをるけれども、この總力戦の根幹をなすものは武力戦であつて、兩方の陸軍・海軍・空軍といふものの主力がぶつつかつて決戦をやる、一六勝負をやる、ここで勝負があり、之が一應戦争の勝敗のきつかけとなる。日露戦争の奉天會戦のやうに、兩方の主力があそこで勢揃ひして、一六勝負をやる。だからこの會戦の成否といふものは、戦争全般に響く。ところで、我が國とアメリカとの間にさういふ決戦は終つたのかといふと、まだ終つてゐないのである。大東

武力決戦はまだ終つてゐない

日米主力軍の
決戦は何時起
きるか。

一三二
亞戦争の初めに眞珠灣で敵の海軍をやつつけられたけれども、それはアメリカ艦隊の全部ではない。爾後アメリカはこれを再建してゐる。それから陸軍はヒッピン、マライ、ジャワ等で敵を撃破したが、これはアメリカ、イギリス植民地軍の一部を驅逐したに過ぎない。而もアメリカの陸軍といふものは、その後において建設したものであつて、現在漸く其の戦力が充實して來て居るのである。若し我が國が今までにアメリカ軍の主力と決戦をやり、これを叩きつけてゐたならば、爾後の作戦は非常に樂になつて居たであらうが、とにかく今までの戦では何といつても兩方の主力決戦が起きてゐないのである。こゝにこの戦争ではまだ大きな癌が残つてゐるといふことがいへるのである。それならば、日米主力軍の決戦は何時起きるか。實は手つとり早く主力の決戦が起きて、早く勝敗のけじめがついてしまふと非常に樂なのだが、仲々さうは行かぬ。

昨年から決戦、決戦といはれてゐるが、其の意味はよく考へねばならぬ。

日本の陸軍と
アメリカの陸
軍との決戦は
果して可能か

勿論第一線部隊にとつてみれば、聯隊とか大隊とかさういふものに戰術的に決戦といふものがある。一六勝負をやるけれども、それは決して戦争全般には響かない。國家的にいふ決戦といふものはそんなものではない。ガダルカナルを決戦場といふけれども、ガダルカナルで日本が敗れても、日本は決して負けはしない。従つて、さういふものは本當の決戦ではない。本當の決戦といふものは、いはゆる日露戦争の日本海海戦の如き、或は奉天會戦の如き、まあとにかく戦争の勝敗を決する、戦争全般の運命を之に賭けてゐる、かういふのが最後の決戦であつて、この決戦といふものがまだ残つてゐるのである。それならば、この決戦といふものは、何時如何なる場所に如何なる形で起きるかといふと、之は非常に難しい問題で、大いに研究を要することと思ふが、まづ日本の陸軍とアメリカの陸軍との決戦が起きるかといふことになると、之は現在の様な廣い區域に戦場が擴大してくると、其の生起は仲々難しい。アメリカが、その陸軍の主力を印度その他に派遣してやるといふ

ことは難しいし、日本が濠洲その他に全陸軍を提げて行つてやるといふことも難しい。そこで、日米陸軍の主力と主力とが一舉に決戦をやるといふことは、容易にあり相にもない。現在あちらこちらで相當の戦が行はれてゐるが、之は戦争の運命を決するものではない。ビルマで大きな戦が起きる、そしてあそこで敵を叩きつけたからといつて、アメリカは參らない。若し逆に、日本が負けたとしても、この大東亞戦争が負けになるものではない。現在の様相からすれば、陸軍に於て一舉に勝負を決する様な決戦といふものは起きない。そこで、部分的な決戦、即ちあつちこつちで相當の戦をやる。之が累積し其の總決算が決戦的成果を齎す。決戦の形が變り、時間的に又地域的に其の範圍が擴げられたといふことになる。そして、かういふ戦争といふものは、必ず長く続く。かういふことがいへると思ふ。一方海軍について見るならば、今まで色々な海戦が行はれたが、みな部分的な戦に過ぎなかつた。處が、最近の様にアメリカがぐんぐん突いて來ると、アメリカの出様によつては

部分的な戦が累積して總決算となる

海軍主力の決戦の可能性

アメリカ海軍は共倒れをねらふ

両方の海軍主力の決戦が起きる可能性が出て來る。殊に海戦といふものは、自ら決戦的特性を持つて居るものであるから、益々公算がないではない。併し、之はアメリカがどこまで突いて來るかによつて決るものと考へられる。アメリカは、果して現在マーシャルの一部、マリアナを略取した餘勢に乘じ、日本本土に對し深く遮二突つかつて來るであらうか。或はそんな危いことは仲々やらないといふことも考へられる。寧ろ、アメリカとしては相當手控へる術も考へてゐるだらう。さうすると、決戦の時期は遷延せられる。それから又海軍では決戦といふものは非常に慎重になるものである。船といふものは潰してしまふと、再建設が難しいから勢ひ慎重にならざるを得ないといふのが一般の状態だ。アメリカは日本の海軍と決戦をやり、自分の海軍は潰れてしまつても、日本の海軍と共倒れになるならそれでいゝと考へてゐるかも知れぬ。次の海軍の建設といふものを考へてゐるから、アメリカは共倒れになつても苦しくない。處が日本は共倒れになると困るから、決戦

海軍の戦も長期
戦だ。

航空戦は更に
長期消耗戦と
なる。

をやる以上是非勝たなければならぬ。その點我が海軍としては、時機の選定なり場所の選定なりに、大いに苦心を要するところだらうと思ふ。兎に角現在の戦局から推せば、海軍の決戦といふものは起きないとも限らない。さうすれば、彼我主力の決戦により戦の終結といふことが一應考へられるが、その場合アメリカ海軍が負けるとどうなるか、アメリカは海軍が潰れても、決して戦争を諦めはしない。必ず次の新しい海軍を作るに違ひない。萬が一日本の海軍が潰れるといふ場合があつたとしても、我が國が降参するかといふと決して降参しない。かういふ武力決戦が起きたところで、今度の戦争といふものは、直ぐ終了することは期待出来ない。況して海軍の決戦も容易に起きるものではないといふことを考へれば、勢ひ長期戦たらざるを得ないのである。又航空決戦といふものもあるが、空軍は其の特性上徹底的覆滅は至難だし、たとへ第一線で覆滅しても生産を根本的に破壊せぬ以上は補充が簡単だから、本當の決戦的意義を有らぬ。長期消耗戦的傾向を持つものである。

速戦即決は至
難である。

ポーランド戦
とソヴェート
戦。

る。

第三には、これからの作戦の推移といふものは、さう迅速にゆかない。速戦即決が難しくなつて來たといふことを考へなくてはならぬ。戦争の初期に於ける作戦は、急襲といふことによつて非常に速く進むが、その後相手が立直つて對應處置を講じてくると、現在のやうに進歩した軍の裝備において、抵抗力が非常についてくる。従つて、それから後の作戦といふものは、さう迅速に進まないといふのが一般状態である。恰度、ドイツがフランス、ポーランドをやつた時のやうに敵の不意を急襲し、其の勢で徹底的にやつた時にはうまく行つた。僅か二週間か三週間で戦争のけりがついてしまつた。ところが、ソヴェートをやつた時は初めはうまく行つた。初めはうまく行つたが止めを刺すことが出來ず、相手が立直つてくると、今度は抵抗力がすつかりついてくる。相手に一度時間を與へると、現在の軍隊といふものは機動力がついてゐるから、直ぐ勢力の均衡をとつてくる。敵側の戦法も内容も判

つて来るから對應處置が取られる。かうして、速戦即決でどん／＼やるといふことが出来なくなる。最初の急襲からすつと押し切つてしまへばとにかく、さうでなくて、兩方の軍の裝備なり、力といふものの均衡がとれてくると、迅速に最後の決を求めるといふことは非常に難しくなる。即ち、現在では作戰速度といふものが鈍くなるといふことを知らねばならぬ。戦果が戦争の初めの時の様に華々しくもないのも其の爲であるが、さういふ戦の本質といふものが、この戦を自ら長びかせるのである。

第四の要素として考へられることは戦力差である。

戦をやつてゐる途中において、交戦國はあらゆる力を集中して戦力の充實に努め、次の決戦に備へ軍備競争をやるのであるが、この戦力充實の競争において、どちらかの力が非常に劣り、これはとてもいかぬとかういふ工合に負けてくると戦は終りになるのである。此の點は我が國とアメリカとはどうであるかといふと、アメリカの戦力といふものは、漸く昨年頃から本當の

日本とアメリカの戦力差。

絶對的な戦力差は兩國にまたがらだ。起きているのはこれ

力が出て來た。我が國では大東亞戦争にはいつてから、南方の物資を入れ軍需工業を起し、二年間血みどろの生産擴充に努め、その結果といふものが、今後において始めて現はれてくるので現在我が戦力は上昇途中にある。即ち我が國の戦力といふものは、寧ろアメリカより遅れて、これから出て來るのであつて、かう考へると我が國の戦力といふものは、十分戦ひ得る自信をもつてゐる。アメリカもまたやるだけの戦力ありと考へてゐる。さうすると、兩方の武力、戦力に絶對的な優劣差はまだ起きてゐない。いはゆるこれからが本當の鎬を削る作戰の時期なので、今まではどつちかといふと、單に本當の戦力を作るための前衛戦に過ぎなかつた。かういふ工合に考へるべきだと思ふ。これからが、兩者全力を擧げての決戦といふわけである。それは單に作戰ばかりでなく、戦争遂行のための必要物資である鐵とか石炭とか、或はアルミニウム、銅であるとか、とにかく戦争資源の問題についても同様で、アメリカはゴム、錫等に困つてゐるといはれてゐるが、それでもまだ

物を持つてゐる。日本は南方物資をいれて、物資の面からも戦ふべき力をもつてゐる。戦力には人的資源の問題もあるが、之亦兩者共に枯渇はして居ない、伯仲であらう。さうすると、之等の方面から遽かに戦争終結も期待出来まい。

國民の戦意といふこと

第五には、國民の戦争意志といふものが、戦の最後を決定する大きな問題だ。昔は軍と國民が遊離した戦が相當あつた。第一線の軍だけの戦で戦争の梟がつくといふこともあつたが、今は各國とも國民の總てのものが戦争に参加してゐる。また國民のやること全部が、戦争の何等かの面として敵と戦つて居る。或は武力戦となり、或は生産戦となり、或は思想戦などとなるのであるが、國民の總てがさういふ格好で戦争に参加してくると、この戦を決するものは、國民の意志となつて來るのである。現在日本、アメリカ兩方の國民の戦争意志はどうかといふと、まだ、兩者ともに旺盛である。局部的には厭戦思想などもあると云はれてゐるが、全般の國民の氣分を擱へれば、ま

戦意は伯仲してゐる

だ、戦争意志は旺盛である。我が國民の必勝の信念は確固たるものであるが、アメリカの如きでも最後は勝つと信じ切つてゐる。

かういふ氣分で戦争意志はまだ兩方とも同じだ。また國民の戦争意志といふものは、戦局の推移とも關連してくる。我が國民には大東亞戦初めのあの作戦力といふものが非常なる確信を與へてゐる。併し、アメリカは緒戦の失敗は用意がなかつたから仕方がなかつた、今度充實した戦力で戦勢を挽回すると意氣込んで居り、最近に於ける作戦の推移といふものは、アメリカに非常な自信を與へつゝある。かういふことからいつても、兩方の國民の戦争意志といふものはまだ、熾んであり、この意志の鞏固さからいつても、まだ、本當に鎬を削らないことには、どつちも參るといふことはないとかういふことがいへる。

それから第六に戦争終結の條件として考へられることは、戦をやつてゐる間に、どつちかの國內に戦争遂行を阻害するやうな障害が発生し、これが自

戦争終結の條件の國內障害

ら戦をやめさせる、かういふことであるが、それならば日本とアメリカとにおいてさういふことが起きてゐるか。我が國においては食糧の問題から、國民生活が少しは苦しくなつたといふやうな問題もないではないが、經濟的に見て或は思想的に見て、國內にどうしても戦が出来ないといふやうな事情が発生したなどといふことは想像も出来ない。またアメリカには同盟罷業等も起きてはゐるが、これとてもまだ戦が出来ないやうな國內問題であると思ふことは絶対に出来ない。而も現在においては昔の戦と違つて、國內態勢といふものを切替へてゐる。何れも長期戦といふものを覺悟して、戦争し易いやうに切替へてゐるといふことが、結局戦を長くすることにもなる。脆弱な國家態勢ではこれからの戦は出来ない。我が國でもアメリカでも、初めから戦争遂行に向くやうに國內態勢を切替へてをり、この態勢といふものは、戦争に對する強靱性を増してゐる。だから、よほどのことがない限り、國內から崩れない。かういふことを考へる必要がある。

第七に戦争終結の要件として國際情勢の變化、國際間の勢力關係が變化するといふことがある。一方が國際間の勢力關係において、相手の勢力關係を崩してゆく。これが戦争終結の素因となつたといふことも、昔は非常に澤山あつたが、現在では世界の大きな國は全部戦をやつてゐるし、また表面上の色分けもはつきりしてゐて、これ以上國際情勢を變化させる餘地がなくなつた。トルコの問題とか、東亞において日ソの問題等があるが、これはもう數年來の問題であつて、今日簡単に解決される様な問題ではないから、これも一寸期待することは出来ない。さうすると、この國際情勢の變化による戦争終結といふものは、今度の戦争においては、最早期待することは出来ないものである。

第八に第三國の仲介斡旋といふことがある。交戦國兩方共適當に戦つて相當疲れたといふやうな機會に、第三國が仲にはいつて斡旋すると戦が終ることがある。而もこの仲介斡旋する國が大きく強い場合には、案外早く戦とい

ふものは片付くものである。然らば、現在はどうかといふと、もう世界の強い國はみな戦をやつてゐる。従つて、仲裁にはいるといふやうな國は小さな國ばかりで、この大國同士の戦の仲に割つて入り、引分けるといふやうな力はない。さうすると、昔の戦のやうに第三國が間にはいつて云々といふことは、期待出来ない。即ち戦つてゐるのは強いもの同士だから、結局最後までゆく。かういふことが今度の戦争の一つの本質である。

第九に考へられることは、前に作戦の問題にもあつたが武力決戦に於いて、相手の息の根を止めるやうな作戦手段があれば、之によつて速く戦の最後を決め得るといふことである。ところが、我が國とアメリカとの間に、兩者が互ひに相手の息の根を止めるやうな手を持つてゐるか、またその可能性があるかといふやうな問題を考へて見ると、我が國がアメリカ大陸に上陸し、ワシントンを攻め取つてしまふところまでゆけば、これは作戦的にアメリカに對して息の根を止めることになるが、之はさう簡單には行かない。ま

一舉撃滅による戦争終結。

どの點から考へてもこの戦争は長期戦だ

た反對にアメリカが日本本土に乗込んで来て、日本をぐつといはせ得るか。さういふことは絶対に考へられない。兩方とも敵の本當の急所に飛び込んで、一舉に息の根を止めてしまふといふ作戦手段がない。またその可能性も少い。相手の息の根を止めるやうな手段があれば、案外早く片付くが、兩方ともその手がないとなると結局或る限度までだら／＼戦つてゆく。さういふところから、この戦争といふものは長期性をもつと考へなければならぬ。今年が決勝の年だといはれてゐるが、この戦といふものはさう簡單なものではない。この戦争の推移といふものは、まだ／＼複雑なものだ。かういふ工合に考ふべきだと思ふ。

以上のやうに考へて來ると、現在の戦争は尙長期性を持つて居ると考へなくてはならぬのだが、それならばその長期性をもつ戦の状態といふものは、どういふ格好で推移するであらうか。さきほど述べたやうに、或は海軍の決戦などは起きるかも知れない。今後戦争の運命は兩國總力を擧げての決戦に

空襲は斯くして起る。

かけられて居るのであるが、兩方とも相手の咽喉笛を締めつけて息の根を止めるといふことが、容易に出来ないといふことになれば、勢ひ持久戦になり、結局は戦力の低下と國民の意志とが最後を決定するのである。そこで、戦力を低下させ國民の意志を挫折せしめる方法が重視せられ、之が爲國土に對する空襲といふことが考へられてくる。國土を空襲することによつて、生産を破壊し國民の意志を破摧する。かういふことを目標にして、戦は進められてくる。アメリカは、今非常に焦つてゐるといはれてゐるが、何を焦つてゐるかといふことを考へる必要がある。また本當に焦つてゐるか。長期戦となればアメリカは困るか。否物質力の豊富なアメリカは長期戦となれば、却つて有利で長期戦で困るのは日本だと思つてゐる。長期戦で日本を參らす手は何かといふと、日本本土を空襲して生産を押へるといふことである。日本國民の精神の強いことはアメリカもよく知つてゐる。だから、これにまともによつつかつても駄目だが、日本の弱いところは物質力で、軍需生産力、こ

ゝに弱點があると考へ、日本本土を空襲して軍需生産を押へようとするのである。もう一つは、日本は南方からの物資を船で運んでゐる。だからこれを押へれば日本は參ると、アメリカでは大體かう見てゐる。だから、非常に焦つてゐるといふが、果して日本本土に對する上陸を焦つてゐるのであらうか。寧ろ、我が國土に對する空襲と、南方の輸送妨害、これを相當徹底的にやり得る状態に持ち來すことを急いでゐるとも考へられるのである。なぜさういふことが考へられるかといふと、ヨーロッパに於けるアメリカの作戦のあとを見れば分ると思ふ。アメリカは、一昨年モロッコ上陸をやつてアフリカにはいつて來た。それからアフリカを奪取し、地中海にはいつてイタリアに上陸した。それまでアメリカは非常な馬力をかけてやつた。處が地中海の制海権を收め、イタリアに上陸してあとといふものは、何をやつたかといふと、それまでに作つた基地からのドイツ爆撃だ。即ち、ドイツに對する空襲包圍圈を作ること非常に急いだのであるがそれから後は、危い第二戦線などは

ヨーロッパに於けるアメリカの作戦ぶりを見よ。

前進基地よりの空襲。

溢つて仲々やらず、専ら空襲をやる。そして、徹底的に空襲で叩き、ドイツがだん／＼弱つて来たら第二戦線を作つてやらう。かういふことで作戦を進めたのである。日本の方に對しても、國土空襲の出来る或る圈内にはいつて来るまでは非常に焦つて来る。南方の輸送妨害が出来るところまでは焦つて来るが、確固たる基礎が出来てしまへば、後は専ら潜水艦戦、空襲戦で持久をする。かういふことも考へておかなければならないと思ふ。アメリカが遮二無二突つか／＼つて来れば、却つてそれはくみし易いが、そんなことはしないかも知れぬ。何としても打算的に考へるわけだから、非常な犠牲を覺悟しての危険なことは成るべく避ける。特に國土防衛上からは、かういふ場合に對することも考へておく必要があると思ふ。即ち、空襲下の長期戦といふものに對する覺悟である。

空襲下の長期
戦を覺悟せよ

三、空襲は活潑化する

今のやうに考へてくると、結局アメリカは日本に對する本土空襲によつて日本を焼き盡す、日本を空襲によつて參らせようと、その線に沿つて作戦を進めてゐることが考へられる。さうして、恐らくはアメリカはこれを実現するだらうと考へなければならぬ。かくして、いはゆる空襲必至、空襲必至といつたことが現はれてくる。この空襲必至といふ言葉は、大體戦争が始つた時からさかんにいはれてきた。ところが、敵は一向にやつて来ない。空襲必至といふ言葉も、何となくもう刺戟性がない。刺戟性がないばかりでなく、疑惑さへ持たせて来る。では、空襲必至といはれながら、どうして空襲がなかつたか。このことは餘程考へなければならぬと思ふ。アメリカが空襲をやらなかつたといふことには、いろ／＼理由があらうが、かういふことも考へてみる必要がある。それは、どういふことかといふと、今まで空襲を

「空襲必至」を
あらゆる角度
から感得せよ

やらなかつたといふことは、アメリカが出来なかつたわけではない。或る危険を冒せば出来る。ただしそれには相當の犠牲を拂はなければならないといふことであつた。これは、二年前の四月十八日の空襲を見てもわかる。アメリカに出来ないことは絶対にない。アメリカが犠牲を覺悟すれば何時でも出来た。たゞ、犠牲を少くしてしかも相當の空襲をやるといふことになれば、今迄のアメリカの態勢といふものはまだ不十分である。かういふことがいへる。アメリカの各方面の基地にしても、日本に對する空襲基地たるには、まだ本格的の準備が出来なかつた。それからもう一つは、アメリカは昨年迄ヨーロッパ第一主義をもつて作戦を進めてをつた。從來ヨーロッパ第一か東亞第一かといふ問題は、アメリカ、イギリス、ソヴェートの間で絶えず問題となつて来たが、アメリカの方針は結局イギリス、ソヴェートに牽制されて、ヨーロッパ第一主義で進んで来た。それがアフリカ作戦となりイタリア上陸となつたのであるが、その後、アメリカの作戦といふものは東亞に轉換して來

アメリカの作
戦事情。

た。これが昨年の春からだ。さうして起つて来たのが、例のアッツ、ソロモン方面の攻勢といふことになつて来た。それがため、日本に對する空襲といふものを、一應後廻しにしてをつたといふこともいへる。第一線における皇軍が、適當にアメリカの空襲基地を叩いてをつたといふことも勿論で、又例のアッツ、ソロモン方面でアメリカの力を牽制もしてをつたのである。之が爲敵は我が本土を直接空襲するゆとりをも持ち得なかつたといふことも考へられる。

空襲包圍圈。

さういふわけで、アメリカの日本本土に對する空襲といふものは遅れてゐたのであるが、今では、愈々安閑としてはゐられなくなつた。今日の様な空襲時代になると、地上作戦の包圍と同様に空襲包圍圈といふものが考へられる。この空襲包圍圈といふものは、結局飛行機の航續距離と關係をもつ。現在ヨーロッパでやつてゐる空襲といふものは、まづ千キロから千五六百キロの圈内である。大體千五六百キロの距離に包圍を詰めてくると、今の飛行機

ヨロツパ
は第一線
の兵頭上
の越しを
通り兵が
土爆撃が
行はれて
はる日

に、直接相手の國民の意志にぶつつかつて来る。或は前線の武力決戦と同時に國民の意志の闘争が起る。かういふことになつてくる。或は又第一線の武力決戦をさし措いて、直接敵の懷に飛び込むやうなことも起きるのである。第一線ではいくら兵隊が頑張つてゐても、これがあくびをしてをつて、而も國內といふものは毎日激しい戦をしてゐる。かういふ様相も出てくるかも知れぬ。ドイツに例をとつて見ても、ドイツの西海岸の警備についてゐる兵隊といふものは餘り用がない。これはあくびをしてゐる。處が、ベルリンはじめドイツの主要都市の生産工場といふものは、毎日空襲をうけて死傷者を出してゐる。かういふ現象を呈してゐる。かういふことが日本にも起きないとはいへない。寧ろ第一線にゐる方が安全だといふことになるかも知れない。さうなつて来ると、結局國土における戦といふものは、國民の意志が決することとなるのであつて、さういふ意味で國土も決戦場だと、かう考へるべきだと思ふ。

軍需生産力
の直ちに
第一線の
戦力を
低下した
弱体化を
銘記せよ

國內こそ最後
の決戦場だ
國土防衛即
力増強

國土が決戦場となると、國民の意志が大きな問題となる。空襲といふものは前にも述べたやうに、國民の戦争意志を破摧し、軍需生産力を落すといふやうなことを目的として行はれる。第一線の戦力といふものは、國內における生産力から培養されてくるのであるが、昔の戦では戦力といふものは、第一線で叩き潰すより手はなかつた。ところが現在のやうな作戦様相になつてくると、この戦力といふものを國內において直接叩きつけることが出来るやうになつて来た。そこで、第一線の武力には手をつけずに、後方の戦力を叩くといふことになり、これは、結局第一線における戦力を無力にするといふことになるのである。かういふ風に形が變つて来たといふことを認識しなければならぬ。アメリカが狙つてゐることもまさにそれである。この意味でこれからの戦争を考へると、國內にあるものが本當の戦を決するのだといふことを悟らなければならぬ。こゝに國土防衛の重要性が生れて来るのである。



五、戦争國家は防衛力が 強靱でなければならぬ

國防國家といふことが前からいはれてきたが、國防國家といふものは戦争に強力な國家である。この戦争するのに強力な國家といふものは、大體二つの力を持たなければならぬ。その一つは攻勢力だ。攻勢をするときの力。今一つは防衛する力。それからそれに加ふるに之等の力を發揮する速度、速度といふものが必要である。攻撃力と防衛力と、もう一つこれに加ふるに時間的の速度、この三つが兼ね備はらなければ、本當の國防國家ではない。結局戦争遂行に適する國家であるから、國家が兵器化するのである。一つの軍艦、一つの戦車に例へて見ることが出来る。この軍艦なり戦車なりといふものを見ると、これを設計する時に、何れも攻撃力と防禦力と速度とを考へなければならぬ。いかに攻撃力をつけるか、いかに防禦力をつける

眞の國防國家
とは、國家の
兵器化である

兵器製作上の
三要件

か、いかに速度をつけるか、この三元が常に兵器を決定する要件になつてゐる。この三つをいかに按配するかが、兵器製作上の基礎になるのである。攻撃力をつけるために大きな大砲を積めば速度が鈍るし、防禦力が薄くなる。防禦を主にして防禦鋼板を厚くすれば、大きな大砲は積めないから攻撃力が減退するし、速度も落ちる。速度を早くすると防禦力を薄くせねばならず、攻撃力も鈍る。結局この三つのものをいかに按配して総合的に強いものを作るか、又目的により何れを重點とするか、かういふことが兵器設計上の基準になる。國家もまさにこれと同じで、この三つものものがうまく按配され、調和がとれて行かねばならぬ。各々の國の立場もあるし、その國の作戦の行き方もあるから一様にはいへないが常に此の三元を考へる必要がある。速度といふことであるが之は從來餘り考へられてゐなかつた。詰り國家の戦争遂行力といふものには、戦力を發揮する爲の時間的要素が非常に必要だ。例へば、飛行機を兩方とも百臺作るとして、一方は之を十日で作るし、一方は一

忘れられてゐる
時間的要素
を重視せよ

國家の防衛力とは何か

軍の防衛力と國民の防衛力

國の防衛力に二つの面がある。外敵の破壊力と内部からの破壊力

ヶ月かゝるとすると、十日で作る方が絶対優勢だ。かういふ意味から、國防國家といふものを分析し、攻勢力と同時に防衛力が強くなければならぬといふことを考へねばならない。國家の防衛力とは何かといふことになる、之には直接的武力防衛力がある。第一線における作戦力といふものは一面攻勢力であると共に他面國土の防衛力でもある。その他、國土にはまた直接軍の防衛力を必要とする。併し國土に於ては軍の防衛力ばかりでなく、國民の防衛力がなければならぬ。寧ろ、防衛の主體をなすものは受身に立つところの國民である。而して、この國民の防衛力に就ては二つの方面を考へねばならない。一つは外敵の力によつて行はれる破壊力に對する防衛であり、一つは内部からの破壊力に對する防衛である。之を今の戦車、軍艦の例にとつて見ると、何れも鐵板を厚くして防禦力をつけてゐるが、之等の組織といふものは敵の攻撃を防ぐと同時に、自分自身の破壊をも防止する様に考へられてゐる。火砲を發射すれば震動が起きる。其の爲に、内部の組織に狂ひが起き

内部破壊とは國の崩壊を意味する

飽く迄も國民意志を強靱にせよ

る。かういふ自分自身内部から崩れぬ様な防衛力が必要だ。國家にとつてみても全く同じであつて、外敵の力に對する防衛力と内部的の破壊力に對する防衛力が必要な譯である。外敵の力に對する防衛力といふのは、空襲或は敵の攻撃、之に對するもので、内部破壊に對する防衛力といふのは、内部から各種の要素によつて思想的に經濟的に國內崩壊が起きる、之に對するものである。この内部的な破壊力といふものは、それ自身では餘り大きな作用をもたないが、之に外部の力が加はると大きな力をもつてくるし、二つのものが關連して大きな破壊力を及ぼしてくる。國土の防衛力についても、之を考へなければならぬ。現在最も考へなければならぬことは、空襲によつて起る國民戦争意志の崩壊であつて、國民意志が飽く迄強靱性をもたなければならぬといふことである。内部的に崩壊すべき要素がある場合には、之を除かなければならない。内部的に鞏固でないと、本當に強い國家であるとはいへない。單に空襲で家が焼かれるとか、爆彈が落ちて工場が壊されるとかい

ふ問題ばかりでなく、之に關連して起きるところの内部的崩壊に對する防衛も、大いに考へなければならぬのである。

六、防空は決戰的本格的空襲

に對し萬全を期さねばならぬ

先程から空襲といふものは將來必ずうける、またその空襲の爲に國土は決戰場となり、空襲は戦争遂行上極めて大きな意義を持つといふやうなことを述べたが、之には現在の空襲の様相といふものを考へてみなければならぬ。大體この空襲では、はじめは夜間空襲によつて相手を眠らさすに、二三日やれば國民は神經衰弱になる。それから工場を壊すとか、港を壊すとかすれば、相手の戦力は低下する、さういふことが考へられてゐた。またその程度の空襲しか出来なかつた。

ところが實際やつてみると、三日か四日空襲を続けると、はじめは非常に

豫想される空襲の様相。

夜間空襲による不眠作戦。

工場港灣の破壊による戦力低下作戦。

その實際の結果は現はれたなかつた。

脅威をうけ、睡眠不足から神經衰弱のやうな状態もぼつ／＼出たが、相手の國民が空襲に馴れてくると案外平氣になり、そこで相手を睡眠不足から神經衰弱にするといふ目的は達しなかつた。それから工場を壊し軍需生産を妨げて戦力を落してやらう、かういふことでやつた空襲といふものも、對應處置がだん／＼とられ、工場が分散をする。掩護措置が講ぜられ、又生産の轉換が行はれる。さういふ風になつてくれば、これまた全面的に徹底した空襲の成果は收められない。そこで國民の戦争意志を破摧する最後の手段が工夫せられることとなる。之が爲にはどうしても徹底的に國民に戦争の慘害を知らさなければならぬ。徹底的殲滅をやらなければ駄目だといふことになつて來たのである。廣い地域をばら／＼にやるのでは、脅威する力が少い。地域は限定しても徹底的に殲滅的成果を求め、逐次其の地域を擴大してゆく。此のやうな殲滅方法を採用するやうになつたのである。これは結局空襲に使用する飛行機の數が、だん／＼殖えてきたといふことにもよるわけであるが、今の

そこで戦争意志の破摧が最後の手段とした。

地域限定の殲滅作戦。而も大規模な連続的空襲。

ゲリラ的空襲
の失敗とアメ
リカ空軍の作
戦轉換

やうな方式をとつて來るといふことになれば、これからの空襲に對する對應措置といふものは仲々難しくなる。それからもう一つ、國土空襲で相手の國民意志を目標とし、之を破摧しようといふ場合には、成るべく大規模な空襲を而も連続的にやらなければ、其の効果がなといふことを考へられなければならぬ。一昨年四月十八日の例に見ても、ゲリラ的に十機や廿機を以てする空襲では殆んど國民の意志には響かないといふことが判る。響かないのみならず、これがために却つて敵愾心が旺んになり、防空が強化されるといふ工合に相手を刺戟するだけだ。乃ち空襲によつて徹底的に相手を參らしてやらうといふことになれば、大規模空襲を連続的に相手の息つくひまもないやうに實施しなければならぬ。國土空襲はだん／＼さういふ方向に進んでゐるのである。軍需工場を叩き潰すとか交通を妨害するとか、さういふやうな特定の目的でやるならば五機でも十機でもいゝ。十機もつて來れば十機もつて來ただけの効力があるし、五機もつて來れば亦それだけの目的を達する。と

大規模空襲を
受けて崩れた
イタリアの敗
戦

ころが五機や十機で東京などの一般の所を空襲してみても其の効果は殆んど取るに足らぬ。あちらこちら、バラ／＼やられてもさう恐くはない。數も少いからその被害も大したことはない。東京あたりに十機廿機の空襲があつたとしても、それは殆んど問題になるものではない。今後本格的の空襲は必ずや規模は大となり、逐次連続性が増してくるものと考へなければならぬ。かういふやうな本格的な空襲がどん／＼行はれてくると、相手の國民次第では相當大きな効果をもつてくるものである。吾々は其の好適例をイタリアに見ることが出来る。昨年の夏イタリアにはバドリオ政権が出て英米側に寢返つたのであるが、その原因は何か。勿論イギリスの謀略もはいつてゐたし、また米英軍がイタリア本土に上陸したといふ戦局にも支配せられてゐたのであるが、其の直接の誘因はイタリア國土に對する英米の空襲である。大體、英米はそれ迄イタリア本土に對する空襲は餘りやらなかつた。アフリカ作戦からさらに地中海作戦を経て、イタリア本土に上陸したのであるが、此の間

國土防衛力に
ア缺けたイタリ
アの苦杯。

國民意志を強
くし、本格的
に空襲に對
せよ。

それ程の空襲をやらすに其の準備を整へて居た。アフリカに確りした足場が出来た後大規模の空襲を始めた。ミラノ、ローマ等に對する爆撃が世界に八釜しく論難せられたのであるが、イタリアはかういふ情勢に對する準備が不十分で、其の防空は非常に貧弱だつた。イタリアでは、アフリカで戦をやつてゐる時は大體うまくいつてゐると思つて居たし、イタリア國民は比較的安心してゐたといふか、とにかく防空をおろそかにしてゐた。その矢先に大規模な空襲が突如として始つたので、これがため國內がぐらつき出し、結局あの崩壊を來すに至つたのである。この例の如く相手の國民によつては、空襲そのものが命取りになることがあるといふことがいへる。固より、完全な準備を講じ、國民の意志が強い場合には、ドイツ、イギリスの如く強靱に戦ひ得るのであるが、國民の意志に弱點があれば空襲は非常な價值を發揮する。空襲する側としては相手を急襲し、且つ大規模連續的にやつて、これを引つくり返さうとする。實に決戦の本格的な空襲を企圖するのであつて、われわ

れ防衛する側としては、それにかゝらないやうに、さういふ本格的空襲に對處することを目途として、萬遺憾なきを期せねばならぬのである。二十機三十機の如き小規模な空襲は既に物の數とすべきではないのである。

第二、皇土は如何にして防衛するか

一 國土は戰鬪配置につき優秀な

戰鬪活動が出来なければならぬ

一億戰鬪配置につけといふことは昨秋からいはれてゐるが、まだ仲々徹底してゐない。戰鬪配置につくといふことは概して生産面に就て云はれてゐる様であるが、これは國土防衛の面からこそ眞劍に考へねばならぬのである。前にも述べたやうに、國內も一つの決戰場となる。敵の武力的手段が國內に及んで來ると國內も前線と同様に戰場としての性格をもつてくるから、之に適するやうな形をもつてこなければならぬのは當然である。これを分析して考へて見ると、まづ第一に國土といふものが戰場としての姿をもつといふ

國內も決戰場
だ。一億戰鬪
配置につけ

防衛力を完全
にするための
國內配置

疎開も國內を
戰場と覚悟し
ての再配置だ

ことではなければならぬ。それはどういふことかといふと、戰場では戰鬪に便な地形を選ぶと共に、所要の施設で之を補ひ、軍隊は戰鬪に有利な配置を取るのである。軍隊の態勢は積極的に敵を攻撃する爲に行動が自由で、最大の力を發揮するに便利な状態であればならぬと同時に、消極的には敵による損害を避け得る様な状態に置かれてゐなければならぬのである。國土も亦此の様な要素を備へる様にしなければならぬ。今防空的に都市の疎開分散といふ問題が起きてゐるが、是は國土といふものを一つの戦をする場面として適する様な状態に置く爲である。何といつても現在の都市の状態や國民の配置といふものは戰場としての姿では絶對にない。これを戦をやり易い様な又戰鬪に有利な態勢におかなければならぬ。人や物の配置は必要の場所に於て防空戰鬪力が十分である様になつて居なければならぬ。國土を戰場的に整備すれば戦をする人の氣持は非常に樂になる。自由自在且つ有効に防衛力が發揮出来る様になる。戰場では軍隊は適當に分散する。自分の身の周りに

國內配置が完
全に出来れば
防空活動も強
り易い。敵襲
への耐久力も
強くなる。

は何も手足まとひになるものはない。かういふ所では壕一つに自分の體を托し、如何に空襲があらうと一向平氣だといふことになる。極めて氣輕に戦が出来るのである。國土においてもまさにその様な態勢がとられれば戦が非常にし易くなる。防空活動もやり易くなり、敵襲に耐へ得る力も強靱になる。ロンドンとかベルリンとかは既にかういふ形に變つて居るのである。それであの烈しい空爆下に持久が出来る。即ち斯ういふ状態といふものは敵の攻撃が烈しくなれば自然に取られて来るものである。併し勉めて計畫的に事前に之を決行しなければ無益な損害を受け、或は之が爲收拾がつかなくなることもあるのである。而も此の態勢は一時の間に合せでは駄目で持久出来るやうに行はれねばならぬ。

一億のこらず
の戦闘員とし
ての活動力と組
織力を持つて。

二、國民は優秀な戦闘員になり且つ戦闘に便なる様に組織化されねばならぬ

國民の服従と
實行力が戦闘
配置のカナメ
である。

烏合の衆では
戦は出来ぬ。
統帥的組織と
統帥的指揮に
よつてテキパ
キ處置せよ。

軍隊の組織を
學べ。

戦闘配置につくといふことはたゞ人を並べるのではない。内容的に國民が悉く優秀な戦闘員になり、且つ之が戦闘に便なる様に組織化されねばならぬのである。國民は思想的にも崩れないやうな戦闘員でなければならぬ。之が爲には防空に於ける訓練も精神的な鍊成も必要ではあるが、それと同時に必要なことは國民の服従心と實行力の問題だと思ふ。平時の國民ならばいろく議論し或は利害打算によつて而も時間にお構ひなく勝手な行動をしてもまあ許されるではあらうが、苟くも戦闘する以上はこれでは駄目だ。戦闘が一番都合がいゝのは軍隊の組織である。指揮官の命令によつて一舉一動理窟なしに響の應ずる様に動くといふことが戦をする場合に一番必要だ。國內が戰場といふことになれば國民はさういふ氣持になり、さういふ組織で動いてこなければならぬ。烏合の衆では戦は出来ぬ。平常國內におけるいろいろの組織は法律によつて動かされてゐるのであるが、本當に戦闘行動をする

爲には統帥的な組織をもち統帥的指揮によつててきばき動いてゆかねばならぬ。指揮するものも迅速適確に處置しなければならぬし、而も迅速に之を下まで徹底し、末端ではそれがどん／＼實行されてゆく、かういふことが必要だ。それから又軍隊の戰場における活動を見ると單に中央が或る指揮をするばかりでなく第一線においても各々任務を與へられ、獨斷でもつてどしどし活潑に動く。つまり戦闘といふものは狀況がどん／＼變化するし連絡も不便だからかういふことが必要なのだ。國土の戦闘態勢においても情勢によつてはさういふことも必要になつて來ると思ふ。中央の指揮といふものは勿論根幹をなすけれども、各地方は各地方で夫々獨斷で活動出來る、かういふことになつてゐなければならぬ。これは行政の分散とでも云ふべきもので、東京がやられ、中央關係の仕事が一旦停つてもこれが爲日本全國の行政活動が停止することなく地方は地方で適當に活動し國家の活動といふものが停止しない、かういふことが極めて必要だ。殊に現在の様に總ての行政といふも

國內の戦闘態勢を軍隊停止に再組織せよ。
行政活動の面に於ける臨機處置。

のが中央に統制されてくると通信その他の破壊により或は中央機關の破壊によつて全國的の活動が停止するといふことになる、かういふことではいけない。空襲による影響を勉めて局部的に喰ひ止め全般的にはびくともしないといふことでなければならぬのである。

三、生活を原始的に還元せよ

何といつても複雑な生活といふものは戦闘部門には適しない。本當に戰場に於て戦闘活動をやらうといふ場合、その生活といふものは原始的に還つてくる。さういふ生活の根據に於て始めて大きな立派な戦闘行動が出来るものである。我々國民の生活は餘りに複雑となつて來て居る。もつと身輕な生活が出来る様になつてゐなければならぬ。殊に空襲を受ければ、我々の生活は現在通りには行かぬ。必ず破壊せられるのである。此の際急激な變化は與へる衝動も大きいので、此の點からも生活の簡單化は考へて置かねばならぬ。

生活の簡單化は戦闘行動の原動力だ。

皇土護持の信念に徹せよ。

一國一家の精神に徹せよ。

四、防衛精神を強化せよ

五二

國土を護らなければならぬといふことは誰でもわかりきつてゐる。誰しもこれを頭からそんな必要はないといふものは絶対にない。其の精神は誰でももつてゐるのであるが、たゞそこに若干の厚薄がある。防衛の根幹はあくまでこの皇土を護るといふことであり、皇土を護る精神が強くなければ駄目だ。防空のことを例にとつてみても、自分の家は焼けても仕様がな、或はこの際だから爆弾が落ちて死んでも仕様がな、かういふやうなことを口にするものが相當ある。併しこれは防空といふものの觀念に透徹してゐないのである。防空といふものを自分の家を護る、自分の命を護るものであると考へるものにとつては、自分の家が焼けても自分が防空壕に入らずに死んだからといつて悔ゆるところはないであらうが、防空はさういつた問題では絶対にない。家でも自分のものではあるが、同時にこれは國家の戦争遂行に影響

一家の一失は國家の一失。

一草一木も國土につらなる

をもつてゐる。自分のものを護ることがまた國家のものを護るといふことになることだ。その一つ一つが戦争遂行に影響してゐるといふ觀念をはつきりもたなければならぬ。例へば自分の家だから焼けてもいゝといふが、焼けたらこれを見殺しにする譯にはゆかない。結局お上の御厄介になる。それから死んでもいゝといふが、死んだら矢張りこれは棺の一つも造つてやらなければならぬから矢張り死なない方がいゝ。生き残つて少しでも國家の戦に貢献しようといふことが必要だ。家を確保して焼け出されたほかの人を自分の家へ入れてやる、さういふ氣持でなければ本當の國土防衛精神ではない。特に生産關係の如き戦前の氣持ならば自分の損害だけで済むんだといふことでよかつたかも知れぬが、今では防空不完全で生産が低下すれば戦争にも直接影響する極めて不忠なこととなるのである。この觀念をはつきり持たなければならぬ。さうして總てのものが國家のものであり國家と共に吾は玉碎するといふ氣持でかゝつてゆかないと、本當の防衛精神が出て來な

五三

訓練即實戦の
心構へ

い。防衛精神としても一つ考へなければならぬことは防衛活動は大いに勇敢にやらなければならぬといふことに就てである。之は防空精神として一般にははれてゐる所であつて日本人は十分勇敢にやり得るとは思つて居るが、併し平常から餘程考へてをらないと矢張りどぎまぎする。やる時にはやるさといつたやうな人も相當あるが、確り考へて覺悟してゐるかどうか。一生懸命訓練をやつてゐる人は矢張り或る程度考へてゐる。四月十八日東京空襲の時に東京市民が非常に落着いてゐた、あの空襲に際して少くも狼狽しなかつたと一般にははれてゐるがあれは決して落着いてゐたのではないと思ふ。始めての空襲でたゞ呆然としてゐた、知らぬが佛からだつた。實際爆彈の落ちた附近のものはその後の警報に對して非常に敏感になつてゐることは事實であるし、またこれは當然だと思ふ。爆彈が落ちても恐くないといふのは嘘だ。爆彈が落ちたら矢張り恐い、焼夷彈で火事になれば困る。それだからこれに對處する爲に平常から色々の防空訓練をやるのであつて恐くないといふ

爆彈が落ちたら
本當に恐い

眞の敢闘精神
に徹すれば平
常に心を失はぬ

のは所謂空威張りで、平常から餘程考へを練つておかないといふ場合に役に立たない。平常防空訓練の活動を簡単なやうに考へるが、實際敵機が攻めて來た、爆彈は炸裂する、高射砲はうなる、死傷者は續出する、自分の家は焼ける、自分の可愛い子供は何處へ行つたかわからない、さういふ状態において泰然として防空活動が出来るか。爆彈付きの焼夷彈が現はれたといふともう尻込みをして居る者もあるのである。これでは實際的の活動ではない。此の様な場合に於ける敢闘精神といふものは平素よく考へてゐる者と然らざる者とで非常に違つてくるのである。之が爲には平素あらゆる場合を想像して精神を修養して置くことが必要だ。平常の防空訓練に於ても今自分の家は焼けてゐる、或は身の周りには怪我人が出る、かういふことを想像してかゝることが必要だ。また街路を通行中今本當に爆彈が落ちたらどうするかといふことを想像し、自分がかういふ行動をとる、これなら大丈夫だといふことを反省して見る、それで始めて實際の場合にも狼狽せず済む。現在の

頭腦訓練に徹
せよ

死を覚悟して
悔なきを期せよ。

五六

状態では此の様な反省、平常に於ける修養といふことが極めて必要だと思ふ。さうすればいざといふ場合に臨んで敢闘精神が強くなる。吾々軍人にして死を覚悟するといふことはさう簡単ではない。従つて平常からさういふことを考へておかないと本當に死に直面した時に慌てるやうなことがないとも限らないから、いろ／＼修養をする必要がある。自分が今此處で死んだらどうなるだらう、あれはあゝ整理してあるし、これはかう處置してあるから後顧の憂ひはないなどと時々考へて見ると、環境の整理も自然に出来る。防空の場合においても同様で、何時如何なる場合においても立派に防空活動が出来なければならぬ。それには平常からあらゆる場面を想像し反省して考へておく必要がある。

五、待つあるを待め、油断は大敵である

敵襲の無い
口だ。戦争も序

大體防衛するものが敵の來らざるを待むといふ氣持は一番いけないのであ

待つあるを待
め。

る。敵米國の侵攻意圖からすれば所詮我が本土に觸れることなく其の戦争意志を放棄することはあり得ない。而も如何なる方法で來るか分らない。色々敵の來襲に關し判断して準備してゐたところで必ずしもその通りには來ない。結局吾々の待むべきものは待つある態勢しかない。これをいろ／＼戰例にとつてみると、今度の世界大戰で待つあるの態勢を整へず敵の來らざるを待んでやつて敗れたものが非常に澤山あるといふことが認められるのである。第一番目にはポーランドである。ポーランドはドイツがあゝの進入を開始する前外交折衝間においてドイツが攻勢をとつて來るといふことは殆んど考へてゐなかつた。だからこれに對する戰の準備が出來てゐない。ドイツが進入した時はやつと動員集中の最中であつた。國民の心構へも出來て居ない。僅かに二週間くらゐで潰れてしまつた。フランス亦これと同様である。ドイツがポーランドを占領しそれから今度は北歐に作戰する。その間フランスでは獨逸の戦力ではまだ準備が十分でないから逆もフランスに對する攻撃は出

フランスの悲
劇。

ポーランドの
悲劇。

来ないであらう、若し攻撃して来ても例のマヂノ線があるから大丈夫だと之に頼つてゐる。ドイツも直ぐにはフランス攻勢をやらなかつた。第一線におけるフランスの軍隊はまつたく戦意がなくなり、ドイツ兵とは適當に手紙のやりとり迄してゐる状態であつた。かういふ工合に軍隊も弛緩してゐたが國內も亦同様弛んだ氣持であつた。その時に突如として獨逸の西方作戰が始つた。あの堅固なマヂノ線は忽ち崩れる、二週間でパリが陥ち一ヶ月足らずで大部分のフランスが潰れてしまつた。それから獨ソ戰の開始もまた同様である。ソ聯に取つては全く寢耳に水であつたためあの通りやられた。大東亞戰の眞珠灣でもマライでもこれまた同様である。米國や英國では日本は支那事變で戦力を消耗して居る、強大な米國に對し武力行動をとつて来るなどといふことはまさかあるまい、かう思つて對應準備が十分出來て居なかつた。其の矢先やられたからあのぶざまを呈したのである。此の様に今度の戰爭では敵の來らざるを待み準備を怠つてゐたものがみじめな状態を呈した。油斷し

寢耳に水のソ

大規模空襲は
不意打ちで來

てをつてやられたものが多いのである。勿論戦史では古今にさういふ例は澤山あるが、手近な最近の例を見ても以上の様なのである。國土に對する空襲といふものは、前に述べたやうに小規模に間歇的にやつてゐては相手に警戒心を起させる許りでなく、相手の國民は空襲に馴れて來るから効果が少い。そこで成るべく大規模空襲をやる、而もこの大規模空襲も出來れば相手の國民の不意に乗じてやるといふことが極めて必要だ。戦といふものは大體敵の不意に乗じ之を急襲することが一つの要訣であつて、空襲も矢張りその特性をもつてゐる。そこで空襲をやるには敵に警戒心を與へず油斷させておいて突如として始める。そして始めたが最後、連續徹底的に相手が氣を取り直す暇のないやうに叩きつけるといふことが要訣なのである。

一九四一年ドイツがポーランドに侵入した時イギリスにおいてはドイツの空襲が直ぐ來るであらうといふのでロンドンあたりではもういろ／＼準備を整へ手ぐすね引いて待つてゐた。ところがヒトラーは少しもロンドン空襲の

巧妙なるドイ
ツのロンドン
空襲。

氣配を見せない。而もポーランドをやつた後は北歐に行きそれから西の方を
 やるとかやらないとかいつてゐる。ドイツとしてはイギリスを攻撃する氣持
 はない。出来ることならイギリスを味方に引入れてポーランドの問題その他
 を解決したいといふ宣傳をする。之が爲ロンドンでは敵の空襲はどうもない
 のではないかといふやうな氣持が起きて來た。そのうちにドイツはフランス
 を席捲する、イギリスではダンケルクの敗戦後獨逸が上陸作戰をするかも知
 れぬといふ危惧が出て來た。之が爲ロンドンにあつた高射砲等は海岸に持つ
 て行つて並べられロンドンは防空的に段々手薄になつて來た。國民はびくび
 くしながらも防空的には關心が薄らいで來てゐる。その間ドイツは西海岸に
 ずつと飛行場を整備し飛行機を揃へ十分な準備を整へて六月から突如として
 大舉ロンドン空襲を始めた。その時は既にはじめの時から二、三百機の空襲
 であつて、當時としては相當思ひ切つた規模である。さうして一週間程連続
 的に徹底的にやつた。これは最も國土空襲の原則にあつてゐると思ふ。その

ロンドン空襲
一週間

あと一週間で
イギリスの危

結果はどうか。ロンドン市民はまつたく手のつけやうもなくなつた。あの空
 襲がもう一週間續いたらイギリスは引つくり返つたかも知れないといはれて
 ゐる。ところが一週間くらゐするとイギリスの防空飛行隊が死物狂ひの活動
 を開始した。これがためにドイツの損害が殖えてきてドイツの爆撃は夜間の
 攻撃に移つてきた。そこでロンドン市民は漸くほつと一息つきこれでイギリ
 スは救はれた。それ以後イギリスのドイツに對する戰意はかたまり本腰を入
 れてドイツをやつつけなければならぬといふことになつた。この例を見ても
 國土空襲といふものは戰略的に敵を急襲する、さうして始めたが最後徹底的
 にやるといふことが一番いゝ。そこで吾々防空を考へる場合には、かういふ
 ことを餘程考へなければならぬ。アメリカの空襲が日本に對して今までな
 かつたといふことはさういふ面から非常に警戒を要する。アメリカは決して
 空襲が出来なかつた譯ではない。既に二年前に實際やつてゐる。それ以後に
 おいては更にそれ以上の可能性が出てゐるにも拘らず之をやらない。これが

アメリカの空襲
規模は今日迄
規程が今日迄
なかつたこと
は明らかで根
安んずる根拠
なからぬ

敵側の内部崩壊を期待する

爲わが國內でも何となく空襲がないやうな安易感が出て來易いので此の様な氣分が國民の間に出てくることは非常に危険である。この間に敵は如何なる準備をしてゐるか分らない。そして吾々の弛みに乗ぜんとして居るかも知れぬ。そんなことがあるとすれば最も注意しなければならぬ。防空する方としては常に待つあるの態勢をとつてゐなければならぬ。然るに國民の中には實際さういふ待つある態勢を整へずに敵側の崩れるのを待つてゐるやうな者ががないでもない。自ら恃む所なくアメリカの内部崩壊を期待するといふやうな氣持でをつたら大きな間違ひである。アメリカ國內にも澤山の弱點はある。弱點はあるがおよそ國家の破壊といふことは其の要素が國內だけのものであつたらこれは何とか抑へ得るものである。これに外力が加はる、即ち外國の武力が作用するとか、或は外國の謀略がはいつて來るとか、かういふやうな外的の力が加はると國內の弱點に火が點けられ易いのである。アメリカがアメリカ自身によつて脆く短時日の間に崩れるなどといふことを當にして

ゐたらとんでもない間違ひといはねばならぬ。さういふ敵側の崩壊、或は敵の來ないことなどを當にしないで敵の如何なる攻撃にも眞に自ら待つある防衛態勢を確りとらなければならぬ。かういふことが絶対必要である。

六、常在戦場の心構へを確固たらしめよ

常在戦場の心構へとは何か

常に戦場にあるの心構へとは何か。自分の家とか財産といふものは何時燒けて無くなるかも知れない。周囲のもの、家族とか親類とかに或は傷者が出來或は死者も出来るかも知れぬ。自分も亦何時何處で傷つき或は死ぬかも知れぬ。戦場といふ以上は戦であるから此の様なことは當り前だとそこまで考へなくてはならず又此處迄考へれば覺悟がはつきり決る。結局は常に死に對する覺悟が必要であり、これが即ち戦場における心構へだと思ふ。覺悟をそこまではつきり決めてしまふ。さうすると結局戦場における氣持といふものは却つて大悟徹底したものになり得ると思ふ。戦をする以上此の様に大悟徹

死に對する覺悟が戦場における心構へだ

大悟徹底すれば朗らかな氣分になる

第一線の方が
氣が楽だと兵が
ははふと悟
れは死を覚
ないからだ。

自暴自棄とは大
悟徹底とは違
ふ。

底した氣持になることが極めて必要である。大悟徹底すれば却つて朗らかな氣分になる。恰度兵隊が戦場に行くと却つて氣分が陽氣になり明日死ぬかも知れぬといふ前の晩に歌も歌へば酒も飲む、冗談話もするといふ境地になる。兵隊は寧ろ内地に歸つて來ると第一線の方が氣が楽でいゝといふ。危険な状態にゐる方が却つて落着いた朗らかな氣持になるといふのは一度戦場に出ると常に死を覺悟しいろ／＼な問題について毫も執着がない、さういふところからあゝいふ氣分になり得るのだと思ふ。人間といふものはそこまで覺悟を決めると大悟徹底した明るい生活が出来る。さうでなくてこれに對する悟りが開けないと、常にくよく／＼した暗い氣持で下らないことを心配する。戦時下の明朗な生活は此處迄考へ且つしつかりした準備が出来て始めて得られる。さうでなくて表面だけの明朗は忽ち逆轉することを知らねばならぬ。空襲で悲惨な狀況が起きれば常に心が動揺するのである。大東亞戦争の本質を考へ今後の戦局を察すれば、此の心構へを確立して置くことが緊要であ

死の瞬間まで
國家に御奉公
せよ

大悟徹底は積
極的光明的積
建的生活を
生む

る。只此處で注意しなければならぬのは此の様な氣持から動もすれば自棄を起すといふやうな虞れがあることである。どうせ家は焼ける命も危いからといふので自棄的氣分といふものが湧いてくるとなればこれは非常に不可なので此の點はつきり考へて置かなければならない。短命で終るのだから貯金もらぬ、どうせ焼けるのだから防空準備も活動も十分にやらぬ、自分の命も粗末に取扱つて掩護の處置も講じない、斯様なのは總て私利私慾を基礎にした觀念から出て來るのである。何時死ぬか知れない存命短かといふことであれば日本國民である以上、生きてゐる間に於て出来るだけ國家に對し最大の御奉公をしなければならぬ、かういふ氣持にならなければならぬのである。何時家が焼けるかも知れないが國の爲命の限り焼かれぬやうにこれを護る、一方において覺悟すると同時に自棄的な氣分にならず寧ろ此の様な積極的氣分に轉換をする、さつぱりした氣持で本當の活動的な動作に移つて來なければ嘘だと思ふ。此の様に考へてくると戦場にある心構へといふもの

花も實もある
戦國時代のす
こやかな生活

世界を擧げて
戦國時代に
積極的に修養
鍛錬せよ

は決して窮屈な問題でなく寧ろ大悟徹底した朗らかな氣持で而も積極的な活動状態を現はしてくる、是が本當の常在戦場の生活である。かういふ様な生活は我國の戦國時代に就て考へてみればはつきりすると思ふ。彼の戦國時代では我々の先祖は群雄争闘の中に生れさうして戦の中に育ち戦の中に死んでゐる。その生活といふものはどんなものだったか。決して暗い氣持でやつてをつたのではなく、花も實もある生活であつた。却つて立派な日本人としての面目を發揮した時代でもある。今度の戦争の状態といふものは正に世界がこの戦國時代にはいつてゐるのであつて、既に今の子供達は大體戦の中に生れて戦の中に死ぬといふのが現實の姿だ。そこでさういふ子供になると自らいはゆる常に戦場にある心構へが出来てくる。出来てゐないのは寧ろ壯年以上の部面にあるので、特に絶えずさういふ考へをもつて修養することが必要である。今後空襲でも頻繁にある様になれば漸次馴れて此の様な心構へも出来てくると思ふ。最初三、四回の空襲には最も注意を要する。適當に空襲の

體驗を経なければ自然に環境に馴れてくるし、さうすれば常在戦場の心構へもはつきりついてくるであらう。之で防空も本當に強くなつてくる。初め急襲的にやられた場合最初數回の空襲に失態を演じない様にしなければならぬ。それがためには平常において十分さういふ氣持で修養しておくことが必要なのである。

七、必勝の信念を堅持せよ

必勝の信念といふことは戦争の當初から八釜しくいはれてゐる。必勝の信念のない者に戦は勝てやうがない。必勝の信念といふものは飽く迄自信であり信念であつて、打算による必勝の成算とか或はたゞ自分が強いから勝てるだらうといふ自惚れとか、そんなものではない。どんな不利な状態にあつても自分は絶対大丈夫だ、絶対勝てる、かういつた氣分が心の中から湧上つてくる、之が信念である。この信念といふものは決して漠然と出て来るもので

どんな不利な
状態にあつて
も自分に絶対
の自信がある
大丈夫だとい
ふ氣が湧き上
るから湧上つ
てくる信念と
いふ

何故日本は絶
對大丈夫か。

神州不滅。

調子に乗つた
事業家が取り
では勝てぬ。

正義日本は必
ず勝つ。

日本必勝の要
素としての優
秀性。

はない。其の基をなしてゐるものは矢張り我國の歴史である。我國の歴史を顧みたまに本當に日本國民の必勝の信念が出てくる。元寇の場合でも明治維新の場合でも總てさういふ外敵にぶつつかつた場合を考へて見れば常に神國不滅といふことが自然に肯ける。而も夫れは決して偶然ではない、日本の神國たる所以、神國たる各種の要素がさういふ場合に發揮せられて來るので、深く其の根源を考へて始めて日本は絶對大丈夫だといふ信念が泛んでくる、之でなければ本當の信念ではない。神州不滅の信念と同時に更に具體化したものとして正しいものが必ず勝つといふ眞理に基く信念も持ち得る。この戰爭の原因には一點疚しい所がない。日本の存立を防衛する、之程神聖なものはない。もしこれが日本が積極的にアメリカを侵略してゐるといふのもあれば、之はもう不正の現はれであり打算的なことだ。さういふものでは決して必勝の信念は湧いてこない。一つの調子に乗つた事業家の様なもので調子よくうまくゆく時はいゝかも知れないが、逆境になれば直ぐ崩れるのである。

る。精神的に弱味があるから堂々徹底的に戦ふことが出来ぬ。國民の結束も出来ぬ。吾々は日本の存立上やむにやまれぬ正義の戦をしてゐるのだ。之だから飽く迄戦ひ得るし、又どうしても勝たなければならぬといふ意志が強められて來る。天も亦必ずや之には味方する。こゝに絶對勝つといふ氣持、即ち本當の必勝の信念が出てくる。かういふ風に必勝の信念といふものは餘り理窟で考へるべきものではないのであるが、現實に色々我國が必ず勝つといふ條件も一應は考へておく、さうすれば、吾々の信念は一層確固たるものになるのである。勿論我國にも戦争遂行上相當の弱點もある。併し又勝ち得るところの要素も幾多あるのである。それでは我國に於ける必勝の要素として如何なることが擧げられるか。その一つはわが日本國民の優秀性といふことである。吾々日本人は先づ自ら大和民族の優秀性といふものをはつきり認識することが必要である。日本民族は産業方面においても思想方面においても世界の何れの民族に比較しても決して劣つてゐない。之は今までの幾多の

忠勇無双、一
致團結の日本
國民

事實が證明してゐる。明治維新當時列國とあれだけ物質文明に開きがあつたのを僅か八十年の間に今日の状態に築き上げた。さうして今や之を相手に堂々正義の劍を揮つて居る。此の一事實をもつてみても如何に日本民族が優秀であるかといふことがわかる。處が外國崇拜の餘り後進國といった氣持で自らの優秀性を確信し得ないものがないでもない。これでは必勝の信念は出來て來ない。日本民族の優秀性は各角度から十分認め得ること、この力こそ必勝の第一要件である。

第二番目には日本國民が總て忠良なる皇民であり、最後迄戦ふべきことを相互に信頼し得るといふことである。我が皇國民の忠勇は誰も疑ふ者はない。自分も勇敢に戦ふが他の人も必ず勇敢に戦つてくれる。かういふことを互ひに信頼し得るので益々お互ひに勵みが出て來る。この状態といふものが自然に必勝の主要要素となるのである。自分は一生懸命やるが、他の者は當にならぬといふのでは本當の必勝的戦力は出て來ない。畏くも 天皇陛下を

敵も恐れをな
す帝陸海軍
の神算鬼謀

中心とする我が國に於て始めて此の相互信頼の姿を見得るのである。

第三番目には皇軍作戦力の優秀なことである。我國の陸軍なり海軍なりの作戦力に就ては國民は絶對の信頼をもつていゝ。又絶對の自信をもつてゐる皇軍の作戦力の優秀なことはまさに世界獨歩、まことに比類なきものであることは誰しも疑はない所である。敵アメリカも皇軍の作戦力に就ては既に深刻に之を體驗し十分之を認めてゐる。戦のことであるから時に一勝一敗は免れぬ。けれども總括的に皇軍の作戦が必勝の申核として存在することには十分の確信を持つことが出来る。

第四番目には作戦物資の獲得、軍需生産力の向上である。日本は此の戦争の開始前、いはゆる持たざる國であつたが、緒戦の戦果によつて必要な作戦物資といふものをとにかく勢力下に收め、一應アメリカに對して戦ひ得る状態に迄向上した。それから又これを基礎とする所の軍需生産力もこの二年間の産業轉換によつて非常に増強せられた。今正に急速に昂まりつゝあり今後

資源獲得によ
る軍需生産力
の向上

において頂天に達してくる。勿論絶対量においてアメリカには及ばぬかも知れないが、我國の作戦を通じ、或る程度の比率を確保しきへすれば十分敵を抑へることが出来る。物量豊富なアメリカとの戦ではあるが、此の點に於ても決してアメリカに對抗し得ぬのではない。

第五番目には食糧の自給性である。戦争をするのに食糧が自給出来るといふことは實に大きな強味である。我國でも食糧の問題は非常に重要なものとなつてゐる。食糧關係は勿論餘裕綽々とはいかぬが、併しとにかく昭和十九年度でも日滿支を通ずる一つの圏内において自給計畫がたつ。此の自給計畫は特別に大きな支障の生じない限りはこれでゆけるのである。又吾々日本人が古來野菜を食べ魚を食べる國民であるといふことも一つの強味であると思ふ。肉食の國民では其の補給といふことが仲々難しいが、野菜は作ればいくらでもとれるし、また魚は獲る努力さへすれば矢張りいくらでも獲れる。即ち魚菜の補給力といふものは肉類に比べて永久性があるのである。食糧に就

食糧に恵まれた
國土の環境

て不足を唱へられてゐるが、一體この不足とは何を基礎においていつてゐるのであらうか。國民の最低生活といふものをどう考へてゐるのであらうか。不足を啣つ者の中には戦前の生活を基礎にしてゐる者はないではあらうが、まだく贅澤の氣分を捨て切れずに居る者もあるのである。戦時の生活であるから最も苦しいドン底生活を基礎にして考へて見なくてはならぬ。さうすればまだ餘つてゐる。最低生活とは何か。我國では昔から味噌汁に漬物、それと飯、之が一應簡単な食事の代表になつてゐる。勿論營養學的には色々な問題もあらうが、味噌汁と漬物と或る程度の米があればやつて行けるのである。米が絶対量に於て不足はしても薯や雜穀などを混ぜたあの総合的な食糧配給で行けば十分之を確保し得る。少しは苦しいであらうが、兎に角自給して行ける。野菜等を作るにしてもまだく利用すべき土地が澤山ある。イギリスでは既に公園の中まで畑にしてやつてゐるといふが、我國ではまだかういふものの利用が徹底されてゐない。努力と工夫により又食生活に對する觀

念の切り替へによつて我國の食糧は自給性十分となるので、何年戦が續いても大丈夫である。

その次に食糧と同時に衣住に關する問題が考へられるのであるが、これは心配はない。此の點では日本は非常に恵まれてゐる。吾々日本人の衣住生活はヨーロッパなどに比べると簡易である。我國では一部寒いところはあつてもさういふところは特別であつて、大部分は眞冬でもバラツクの建物で着物を二、三枚重ねれば凌げるのである。而も日本人は比較的衣に豫備を澤山持つて居る。何年來貯藏した家庭の衣服といふものは相當豊富で、この問題では數年間殆んど心配ない。更にかういふ衣食住の問題に關連して考へられるのは日本人が比較的原始的な生活に馴れてゐるといふ事である。或る程度生活が下げられても耐へ得る特性をもつてゐる。只其の生活低下が急轉直下の來なければいゝのであつて、徐々に變化するのであれば逐次環境に馴れて案外耐へてゆけるものである。今之を現在の吾々の生活に就て見ても二年

簡易生活に
つては、
日本の
衣服と
住居

貯藏無難の家
庭衣料。

前のものに比べればそこに非常の差があるのであるが、徐々に變化して來てゐる爲吾々は大した苦痛なく耐へてゐるのである。氣持の問題として將來に對する不安といふものはないが、處置宜しきを得れば決して耐へられないことはない。この先まだ何年か續いたところで衣食住の問題で國內的に破綻を來すことは先づないと確信し得る。

その次には敵が我が本土に大舉上陸するといふ様な事は容易にあり得ないといふ事である。敵は局地的に擾亂的に上陸する様な事があるかも知れぬが我が本土の心臟部に大舉上陸する様なことは出來まい。若しありとしても之ならば十分覆滅し得る。従つて敵の我が本土攻撃は空襲が主體となる。空襲では如何に烈しくやつても之だけでは決して參らぬのである。空襲といふものは如何に連續的にやらうと思つても結局は斷續的になるし、また國土を占有する事は出來ぬ。例へば東京が焼野原になつても都民は田舎に分散してしまふ。さうすれば敵の飛行機はどこを空襲したらいゝか分らなくなる。全國

敵がいく
つても日
本に上陸
するの大
學に來
ない。容
易に

人口の増殖に
もひけをとら
ない。しかも
一億一心、金
鐵の團結力。

的に森林も畑も悉く爆撃して覆滅するといふことは出来ない。吾々は尙戦争を繼續し得る。結局敵が上つて来ない以上空襲だけでは參るものではない。ドイツは昨年夏以來あれだけ空襲を受けてゐるがビクともしてゐない。かういふことを考へて見ても空襲の損害だけでは決して致命的とはならないといふことが分る。我國の地理的環境は此の點で依然必勝の要素なのである。その次には我國の人口の増加と一億國民の結束といふことである。最後は人口問題が戦を解決する。我國の人口はこの戦の中でもどん／＼殖えてゐる。而も我が大和民族一億は鞏固なる結束をなし、更に之を中核として東亞の民族がついてゐる。敵アメリカは一億三千萬の人口をもつてゐるのであるが、その中には黒ん坊もゐるし、アメリカ人自身亦寄せ集めでその結束はとも我國のやうにはゆかない。かういふことから考へて見ると、我國の人口問題、國民の結束状態といふものはもう絶対に勝ち得る態勢になつてゐるといふことがはつきりいへるのである。

敵機の來襲に
も限度がある

前に述べたやうに敵の我國に對する空襲は今後必至で又相當大規模なものもあると考へられるのであるが、其の空襲には自ら限度があると思ふ。現在ヨーロッパで行はれてゐるやうな數百機或は千機といふやうな規模でほとんど連續的にやる爆撃は仲々東亞の戦場では至難である。前にも述べたやうに海を基地とした場合若干の島を利用するのであらうが、これ等の島は小さい上に數もさう思ふやうにない。従つて飛ばし得る飛行機にも限度がある。遠距離爆撃機が出來れば數千機も空襲可能距離にはなるけれども、海を超えて此の距離をやつて來るのはヨーロッパの様に一千キロの近距離で陸地を通つて來ると比べれば餘程性質が違ふ。自然空襲の規模も連續度も制限を受けるのである。航空母艦をもつてする場合に於ては多數の空母を以て大規模な空襲が出来るが、二週間も三週間も連續的にやることは出来ない。油の補給等の爲必ず基地に歸らなければならぬし、また我が海軍がある以上我が近海に永らく止つてゐるといふことは絶対に出来ない。さうすると大規模にや

支那の敵地に
はガソリンが
無い。

り得るけれども連続的實施は難しい、かういふことがいへる。それから支那の基地を利用する場合には飛行場は相當澤山あるので大規模な空襲は出来るが、支那にはガソリンがない。アメリカは今このガソリンを空中輸送によつて運んでゐる。ビルマが彼等の手にはいらぬ以上陸上輸送は出来ない。空中輸送をやつてゐるのである。勿論アメリカとしてはこの空中輸送力を増強するであらうし従つてガソリンの輸送量も殖えることは考へておく必要がある。しかし何百機といふ飛行機を連続的に活動させるには莫大な油の供給があるので、この方面の敵活動はこの點で掣肘をうけるわけである。更に支那大陸に於ける敵飛行機の活動は我が在支空軍によつて適時に叩ける。最も有利な支那の基地といふものがさういふ工合にいろ／＼な掣肘をうけるのである。かういふ工合に考へると、我國の防衛戦略態勢といふものは依然として恵まれた状態にあるのであつて、大いに意を強うし得るのである。

次に空襲に對する國民の強靱性といふことであるが、我が國民は直接身の

弱地に立つほ
ど反撥力の強
性を日本國民

日本家屋は明
け放しておけ
ば爆風にも強
い。

周りに於てまだ戦争の慘禍に對する體驗を經てをらないので心配だといふ點もないではないと考へられるのであるが、日本國民は元來窮地に立つて反撥して本當の面目を現はしてくる。これは今までの歴史を見てもわかることであつて、今後空襲の被害が起き困難が増して來れば、之に應じて必ず強靱性を現はして來ることが出来る。

次に日本木造都市の防衛性といふことである。アメリカでは日本の家は木と紙とから出來て居るので之を焼き盡すことは容易だといつてをり、防空上も此の點は特に重視されてゐるが、日本都市の防空上寧ろ強靱性をもつてゐることに就ては餘り考へられて居ない。日本の家屋は開放式に而も木造であるから開け放しにしておくと爆風に對して非常に強い。西洋建築では爆風が強く當り破壊力が大となる。而も西洋家屋は窓ガラスが壊されると住めなくなり、此の點では今どこでも弱つてゐる。處が日本の家では窓ガラスがなくとも障子や雨戸をやつてゆける構造だから差支へない。又火災の問題である

ヨロッパでは何故焼夷弾の被害が多いか

本當にまもるべき家は、火は容易に消火は容易だ

が、ヨーロッパに於ける空襲の體驗から見ると矢張り火災の被害が大部分である。ヨーロッパでは空襲の時一般市民は地下室へ避難する。焼夷弾が落ちて先づ發火するのは焼夷弾の侵徹から見ても上層の五階六階である。さうすると初期の防火が出来ないのである。地下室から駆け上つてゆく間に火はどんどん擴がつてしまひ、又之に對する消火は外部からのバケツ注水では届かぬので大型のポンプでなければならぬ。即ち空襲火災で最も必要な初期の防火といふもの、又隣組式の消火がヨーロッパの家では難しいのである。これがヨーロッパの火災を大きくして居る原因と考へられる。日本の家では大都市の一部高層建築物は別として一般の家としては二階が普通である。これならば地上に避難してを待つて焼夷弾落下と同時に初期の防火が出来ぬ。ポンプが揃はなくても澤山のバケツが役目をする。空襲の場合最初の二、三分間に防げば火災を防止し得る事は四月十八日にも十分體驗をしたのである。又破壊消防も木造だから簡易に實施が出来て大火災を抑へる事が出来る。かうい

應急バラックの建築も容易だ

ふやうに空襲火災は外國の家より防ぎいゝといふことがいへる。本當に防衛する氣持が旺盛で適切に活動しきへすれば敢て恐るゝに足りないのである。もう一つは日本の都市は高い建物がないから結局面積が廣い。横にひろがつてゐるから敵が爆撃する場合にもこの面積といふものが物を言ふので、これを全部徹底的に覆滅するといふことは面積が廣いだけ困難である。此の様に考へて來ると日本の都市といふものも防空上一つの強靱性を持つて居るのであつて、たゞ弱い弱いといつて悲觀するには及ばない。こゝに防衛上の信念がもてるのである。更に木造都市の有利な點は被害を受けた後の生活にもある。空襲被害の後には應急的にバラックを造つて住まねばならぬが、此のバラックは爆弾で破壊せられた柱や板などを集めても出来るし、又焼け残りの材料でも利用出来る。而も焼跡の整理は簡單である。處が外國の建物では一度壞れたら手のつけやうがない。焼けたものも利用價值はなく、清掃に持て餘すのである。最後迄頑張る氣持があれば吾々の都市は却つて有利なのであ

る。
又日本人は相互扶助的な義侠心が旺盛で、又家族主義が發達してゐる。此の點を生かして行けば空襲後の生活確保といふものは外國などに比べて遙かに容易で何とか切り抜けられるのである。是亦一應必勝の要素として考へられる。

以上の様に考へてみると我が大日本が神國として永久に地球上に彌榮え行くべき本質を有して居ると共に、現實にも各種必勝の要素があるのであつて、吾々は御稜威の下一億結束して事に當る以上、絶對不敗、必勝の信念確固たるものがあるのである。併しこれ等必勝の要素といつても、手を拱いてゐて勝てるといふ事ではない。かういふ要素があるからこれを確り活かさなければならぬ。活かさなければ敗れることもあるのである。而も活かす活かさないは吾々國民がやることである。吾々のやりやうによつて之が活かしてくるし必ず勝たねばならぬといふ努力によつて始めて必勝となるのである。

必勝の要素は
必勝の努力は
必勝の始末は
必勝の生

戦争の勝利に
も幾通りか
ある。

必勝の信念に就ては今一つ考ふべき問題がある。必勝々々といふけれども果して如何なる状態に於て勝つかといふことの認識である。戦争の勝利といふものには各種の様相がある。敵を徹底的に覆滅し其の心臓部に攻め込んで城下の盟をさせるといふ勝利もあらうし、さうでなくても敵が疲れ切つて媾和を申込んで來るといふ勝利もある。是等如何なる戦勝を得ることを以て吾々の必勝に胸算して居るかといふことははつきりして置かないと、戦局の推移や困難の状況によつて信念が動搖してくるのである。日本が戦力の増強を以て攻勢に出で、印度濠洲を攻略しアメリカに上陸して之を屈服せしめるとか、或はまた我が國土は少しも敵に觸れさせず、東京の家は一軒も焼かすに前線でアメリカ軍を覆滅し之によつて大東亞共榮圈が確立せられるとか、其の様なことのみを考へて吾々は必勝であると自信して居たならば戦局の如何によつて忽ち其の信念は崩れるであらう。此處で大東亞戦争が防衛戦であるといふ本質を振り返つて見る必要がある。アメリカは飽く迄攻めて來るであ

巻頭でも述べ
たが大東亞
戦争の本質は
防衛戦である。

らう。そこで吾々は前線でも之を叩く、國土でも之を防ぐ、愈々最後には皇土を複廓として最後の一人迄戦ふ、この覺悟が必要である。アメリカが我が國土に上陸でもすれば吾々は愈々之を叩きつける事が出来よう。我が國土の一部が取られても國內に立て籠つて五年でも十年でも屈服しないで抵抗する、そこ迄覺悟して戦へば敵はいくら攻めて見ても駄目だといふことで戦を斷念する。アメリカは必ず手を上げて来るに違ひない。さうして我が日本の理想は貫徹せられアメリカは再び我國の意志を抑壓しようとはしなくなるのである。これで我國は最後の勝利者となるのである。此の様な段階迄考へて置けば決して負けない、必ず勝ち得るといふ自信は勃然として湧いて来るのである。調子のいゝ戦局の推移のみを頭に畫いて考へて居る必勝の信念は水の泡みたいなものである。勿論以上述べた様な極端な戦況にはならないで敵に侵攻の意志を放棄させることになるかと考へられるのであるが、此の戦争では此の覺悟は必要だ。これで戦局に伴ふ一喜一憂もなくなるし、泰然として

最後の段階まで
考へておきな
ば徒らに喜
る。憂しなく

指揮者の責務

最後の勝利に邁進し得るのである。戦勝の爲には一面どうしても勝たなければならぬといふところの努力が要求され、この努力によつて必勝の信念がまた強められてくることは前にも述べたが、其の努力は此の覺悟の下にすることが必要である。たゞ日本は勝てる、軍隊が強いから勝てるといふ様にこれに許り恃んで自分は何もせず暢氣に構へてゐたのでは決して勝てない。防空の問題にしても各種の訓練を積み凡ゆる敵の空襲に對して大丈夫防ぎ得るといふ所まで自信力を強めてゆくことが極めて必要で、平素いゝ加減に濟ませ何等かういふ點に自信を持つて居ないと、敵の空襲のやり方で直ぐ足許が亂れるのである。殊に防空では指揮者の優秀か否かといふことが全般の能力に極めて大きな影響を與へるので、個人の能力が優秀でも指揮者の指導が拙いと崩れてしまふ。個人の能力、自信といふものは指揮者の指揮のとり方によつて一層強化されるものである。長々と述べたのであるが、我國が最後に必勝するといふことに就ては吾々は十分な自信をもつて考へることが出来

るし、この必勝の信念を確り把握して臨むといふことは結局皇土の防衛を必勝ならしめる所以であつて、これが浮ついてをつたら戦は負けだといふことになるのである。

八、防空は自ら工夫せよ、又空襲の

體驗を活かさなければならぬ

今までの防空では多くは上の方から指示せられそれによつてやつてゐるのであるが、これでは仲々本當に信念のある防空にならない。防空といふものは各々の場所場所においてこれに適應した方法をもつて行はれるものでなければならぬ。防空の目的といふものはつきり掴めばその手段方法といふものは自ら工夫が出来る。防空といふことは結局自分の身を護り自分の家を護るといふことであつて、それならば之を如何にして護るかについては若干一般的の技術的な問題もあるのであるが、其の他場所や境遇に應じた色々な

創意と工夫が
家を護り身を
護る。

同じ過失を何
回も繰返さぬ
工夫が肝要。

指導、徹底は
迅速、的確に

方法については自分で工夫が出来ると思ふ。又それでなければ本當に板についた防空にならない。吾々が平常外國の例などを参考にしていろいろ研究してゐても實際空襲をうけてみると又いろ／＼な新しいことが出てくる。體驗といふものは非常に貴重なものだ。これをよく活かしてどし／＼新しい對策を工夫してゆかないと同じ過失を何遍も繰返すといふことになる。之が爲にも獨創的の工夫が必要であるが、更に空襲の體驗に基き今迄の防空に關する指導を變へなければならぬといふ場合に之が最も迅速に行はれなければならぬ。中央で指示したことが末端まで徹底するのに一ヶ月も二ヶ月もかゝつてゐたら駄目である。中央で指示したことが一日で全國に徹底し直ちに實行出来るといふことになればその國家は非常に強い國防國家だといふことになる。戦にはこの速度、時間の問題が非常に大きくものをいふのであつて、此の點は先にも述べたが、さういふ風に國家の機能は活潑に動かなければならないし、國民はまたさういふ工合に統制されて、きび／＼動いてゆかなければ

ればならない。一日早く改めればそれだけ損害を少くし防空がうまくゆくのであるが、遅れたらそれだけ同じ過失を繰返し被害を反復するので、かういふことが今後の防衛上極めて必要なのである。

九、空襲によつて崩れるのは内部に

ある。特に思想的崩壊を戒めよ

空襲によるところの物質的被害といふものには特に軍需工場や運輸機關等が破壊せられ軍需生産を低下して戦力に影響するといふ様な重要なことがあるけれども、国民生活に對する物質的影響は非常に心配に堪へぬといふものではない。寧ろその空襲の影響によつて内部的に色々な問題が起きて來る、之が國內を崩壊に導く要素になるのである。国民生活の問題からいへば東京の大震災では一日か二日であつた状態を現出したに拘らず、国民生活については兎にかく何とかやつてゆけた。勿論若干の混亂は惹起したが、しかしあれ

精神的動搖による内部崩壊を警戒せよ

だけの打撃をうけても國民の生活といふものは全面的に見て何とか維持が出來、食糧の配給も圓滑ではなかつたが、餓死者が出る様なことはなかつたのである。今後空襲によつて彼のやうな状態が一日や二日で起きるといふことは決してあり得ない。何回もの空襲被害が累積してあの様になるといふことは考へなければならぬが、時間をかけて徐々に被害が増大するのは国民生活においては何とか切抜けられる。寧ろ之をきつかけに起るところの思想的崩壊が危険である。國內に於ける混亂の發生に乘じ更に外的の力も拍車をかけてくるのである。思想的崩壊として最も戒めなければならないことは敗戦思想、厭戦思想、反軍思想等である。頻繁に空襲をうけてくると今まで順調に戦をやつてゐたものがもう駄目だ、日本は負けるのではないかといふやうな氣持が起きてくるものである。此の敗戦感が出て來ると必勝の信念はなくなり、自ら逐次敗戦へと追ひ込まれて行くのである。空襲をうけても決して戦が負けたのではない。今次戦争の特質といふものをよく考へてみればすぐわ

思想的崩壊の要因たる敗戦思想、厭戦思想、反軍思想

空襲を受けずとも戦の負けを意味しない

かる事であつて、國土空襲は當然な戦の様相である。昔小銃のみで戦をして
 きた時代にはこちらの弾が敵の所へ飛んでゆくが敵の砲弾も我が陣地に飛ん
 で来る。戦といふものは弾のやり取りをするもので、之で互ひに鎬を削るので
 ある。現在では飛行機といふものが出来て来た。従つて飛行機の届く範圍に
 迄敵の手が伸びて来ることは當然で、敵の飛行機が來襲すれば又こちらの飛
 行機も敵地を襲ふ。吾々が空襲を受けてゐる際は皇軍が敵を捉へて覆滅する
 好機ともなつて居るのである。宛も今迄の戰場において小銃や火砲の弾が飛
 んで来るのと同じことで、敵の飛行機が空襲して来たからといつて決して負
 けたのでも何でも無い。かまひふ状態で互ひに意志の争闘をするのが現在の
 戦なのである。その次は厭戦感であるが、戦がいやになるといふ氣持は空襲
 をうけて危険な状態に置かれると恐怖觀念などから出てくるのであるが、人
 間といふ者は同一環境を繰返して居れば自然に倦怠を生じて来るもので、之
 がまた厭戦感に拍車をかけるのである。これらの敗戦感、厭戦感は自ら思想

戦がいやにな
 るのは恐怖感
 だ。他互感から

敗戦感、厭戦
 感の軍民離
 間感、種々
 絶えず戦争
 的の本質の
 目的を考へ

的に轉換し更に反戦思想といふ様な物に變つて行く、之等の思想が起きて來
 るのは結局今度の戦の本質をはつきり掴んでゐないからで、特に戦といふ物
 を甘く見てゐるからである。戦を甘く見、順境に馴れて居ると空襲などによ
 つて直ぐこんな氣持が頭を持ち上げてくるのである。また反軍、反政府思想
 も注意しなければならぬ。空襲によつて生活が脅かされて來ると其の不満か
 ら一體軍は何をしてゐるのか、政府の處置は信賴出來ぬといふ様な誹謗が出
 てくるのである。敵機の來襲を完全に抑壓し來襲敵機を悉く撃墜することの
 不可能なことは明らかであるが、苦しくなれば段々惡意に之を解する様にな
 る。軍に對する信賴がなくなり、軍、民離間すれば戦争の遂行は覺束ないこ
 と云ふ迄もない。反政府觀念亦同様である。空襲時になれば必ず一般の生活
 が混亂する、物の配給も平常通りにはゆかない。若干の不公平や不圓滑は必
 ず起きてくる。さういふところから反政府的な觀念といふものが必ず出てく
 る。かういふ時に乗じて敵の謀略もはいつて來て國內を分裂させ、國民思想

敵の謀略は混
 亂の心をスキ
 に乗ずる。

悪思想の根源
は不平不満に
ある。

を崩壊に導くのでこの點十分警戒しなければならない。空襲時生活が困難になり又は跛行的となつたりするのは當然である。更に空襲の時自分の家が焼けたりと動もすれば又これが色々の不平になつて出てくる。警防團は隣の家ばかり消して自分の方は手傳はなかつたとか、消防の來方が遅かつたとか、自分の家は延焼の虞れがなかつたに拘らず破壊したとか、さういふ不平不満が轉じて各種の悪思想に發展してくるのである。空襲の場合消防機關といふものは重點的に活動する。燃えてゐる家を犠牲にして他の方面の家を壊す場合もある。殊に生産を確保する意味から工場の消火には非常に重點をおき一般の住宅は放つておいて専ら工場の消火に勉めるといふこともあるのである。さうすれば自分の家が焼けたことによつて工場が助かるといふことにもなるので、寧ろ積極的な氣分で自分の家の犠牲となつたことを甘受しなければならぬ。此の様にいろ／＼個人的には不公平なことが出てくることは已むを得ない。救護においても配給の問題においても同様である。その場合に

ものの考へ方を決して不平の方面にもつてゆかない様に積極的に解釋する、かういふ態度が必要である。

十、空襲の影響による抗堪力を強靱ならしめよ

結局空襲によつて崩壊するのは内部的要因からであつて、國土防衛の重要部面が内部崩壊に對するものにあることは前にも述べた所である。これに對しては思想的、社會的に互つてこの欠陥を誘發しないやうな準備を整へて置かなければならぬ。これが爲には國內における思想を淨化し且つ強化して置かなければならぬと同時に、さらに國內の各部面に互り弱點を是正し積極的に良好な方面に指導して置かなければならぬ。ところが戦争が續いて來ると、各方面の影響から自然に思想社會的各方面にも缺陷を生じて來易いもので、これを防衛的に見ると次のやうな諸點が注意を要すべきものとして擧げ

思想淨化が國
土防衛の一大
要素である。

られると思ふ。

第一には平等觀念の擡頭である。戦時に於ては生活が困難になる。之は各種の原因から避け得られないのであるが、之が爲物が配給制度になる。そして所謂乏しきを憂へず等しからざるを憂へるといふことで、頻りに生活の物資均霑といふか成るべく普遍的になるといふことに努力が拂はれる。ところがこれが動もすれば平等觀念、平等思想といふものを植ゑつけて來るのである。配給の問題にしても、これが平等觀念、平等思想から出發してゐるところのものであるなら、これは共產主義である。日本の配給はさういふものではない。政府の親心から成るべく各方面に廣く行き渡る様にしてやりたいといふ氣持から出發してゐるのであつて、決して國民の權利觀念、平等思想から要求して生れたものではない。ところがそれを放置して置くと誰某のところには澤山物が入つて、自分のところには少ししか配給がない、結局一つの卵も三軒で平等に分けなければ承知せぬといふ所まで來るのである。寸暇な

悪平等觀念も
悪思想を生む

權利を主張す
るな。感誦し
て受けよ。

き重要業務に服して居る者も映畫を見る閑人も一律に混み合つて電車に乗れといふことにもなる。之等は不知不識の間に平等思想に侵されて居るので、かういふ氣分が國民の間に出て來ると非常に危険になる。この様なことは單に生活の問題ばかりでなく戦争負擔の均衡などといふことにもある。現在の戦争では國民は一樣に何等かの形で戦争遂行の一因子となつて居るのであるが、或る者は非常な負擔をなし、或る者は殆んど負擔をせず呑氣に構へてゐるものもある。かういふ負擔の不均衡といふところから不平不満が生れ、色々な社會問題が発生して來易いのである。戦争負擔を均衡にしなければならぬといふことも國家としては考へねばならぬ。しかしこれも平等思想から生れて來てゐるのではないのであつて、或るものに特別に負擔させるといふことは氣の毒だから成るべくみんなのものが一生懸命になつて同じやうに戦争に參與し總力を發揮させてやらうといふやうな、所謂親心から出て來るのであつて、これを平等觀念と履き違へると非常に由々しき問題になる。戦争

他人よりも戦
争は、國家の多
くの御奉公がそ
れだけ多いこと
とを自負せよ

に於て國民悉くの負擔が平等になるといふことは絶對不可能である。寧ろ我國の思想からいへば戦争負擔の如きは他人よりも餘計負擔する、他人より餘計負擔するといふことは他人より餘計お上に御奉公するといふことなので、國民としては他人よりも苦しみ他人よりも澤山お上に御奉公するといふ氣持で行かなければならぬ。元來等しからざるを憂へるとか戦争負擔を均衡にするとかいふことは、たゞ政治するものとして考へるべきことで、みんなに同じやうな負擔をさせる、物も成るべくみんなに行き渡るやうにしてやりたいといふだけである。これを下のものが平等思想的に考へたならば非常な間違ひとなるのである。

己の利のみ
計る個人思想
は悪思想を生
む

第二には個人的權利觀念の發達といふことである。之は平等觀念、平等思想といふものとも關聯してゐるのであつて、例へば物の配給にしても、隣のものが卵一つ配給を受けたから自分も一つ配給せられる權利があるとかういふ風に考へたならば物の配給精神は根柢から崩される。生活の最低限を確保

戦争に不自由
はつきりものだ

して貰はなければ戦争に協力しないといふ觀念にだん／＼發展して來るのである。工員其の他の勞務者が、物資の特配を受けるのを當然の權利の如くに考へたら、大なる間違ひである。之が爲下剋上の觀念も出て來るし階級觀念も植ゑ付けて來るのである。國民としてはさういふことを權利觀念を以て主張すべきものではなく、戦争に不自由はつきりもので不自由な生活は當然である。物が片寄るといふことも輸送不足とか、物の少い時だから當然である。それに甘んじて堪へて行く。而も此の戦は飲まず食はず石に嚙りついてもやり抜く、さういふ氣持を一般に持たねばならぬのである。さうすれば政府のやり方が少しでもうまく行けばこゝに感謝の念が生れて來る。同じ一つのもの配給されても、國民の考へ方一つで之を不平をもつて迎へると、感謝を以て迎へると、觀念の差が出て來るのである。之等の氣持がびつたりしてゐないと、空襲にでもなつた場合、國民生活の混亂不圓滑から、忽ち惡思想に轉換するのである。

感謝して受け
るものには豊
かな稔りがある

氣の荒みにつ
ける道徳観
念の低下を恐
れよ。

第三は道徳の低下と相互扶助精神の欲如といふことである。戦時に於ては国民生活は苦しくなる。而も一方においては氣分が荒んで来る。これは已むを得ないのであるが、之が爲自己保存の觀念が強くなり他人を押退けてもといふ氣持が出て来る。これが結局買漁りとなり、闇となり、或は交通道徳の低下、犯罪の増加等となつて現はれて来る。元來國民の道徳觀念、殊に相互扶助精神の強いといふことは、日本人の非常に美しいところであるに拘らず、生活状態が苦しくなると背に腹はかへられずといふやうなことから、この美しい日本の道徳、相互扶助といふやうなことがだん／＼失はれて来る。これが空襲になるとさらにその缺陷を暴露し、益々混亂を増大するといふことになるのである。

「人生廿五年」
をふみあやま
るな。

第四には刹那主義、責任觀念の欲如といふことである。かういふ戦時状態が永く續くと、どうせ家は焼けてしまふのだ、自分の命は明日をも知れぬのだ、かういふ氣持から動もすれば刹那主義になり易い。自分の生き方につい

て責任を持たなくなる。刹那主義になつて来ると、例へば貯金の如きものも、どうせ先は長くないから貰つた金は生きてゐる間に使つてしまへといふことになる。近頃人生廿五年といふ言葉が大分流行つてゐる。これも死を覺悟する氣持はいゝが、しかしどうせ廿五年だ、先は幾何もないといふ氣持からこれが刹那主義に變つて来ると非常に危険である。先が短かいといふならば、日本の國民としては生きてゐる間に出来るだけ御奉公をしなければならぬ。昔の人が五十年かゝつてお國のために盡したことを、廿五年で盡さなければならぬ、せめて出来るだけの貯金報國もする、かういふことに變つて来なければならぬ。一方に於て戦時の覺悟を決めると共に、之をかういふ様に積極的に活かして行かねばならぬ。これではじめて國家的に潑刺たる氣分が出て来るが、反對にこれが爲責任觀念が缺けて来ると非常な危険になる。かういふことが防衛陣に直接響いて来るのである。

第五には家庭生活の行動性といふことである。戦前ではさう人が動かすに

家庭生活の行
動性はつとめ
てせよ。

生活が出来た。家庭の婦人は家から出歩かなくても済んだのであるが、今ではものを買ふのに手近には物がないので色々の所を探して歩く、配給の関係でも相當動かなくてはならぬ、かういふことで家庭のものがだん／＼街頭に進出し、時間を費す様になつて所謂買出しもあるのである。かういふやうに廣い範圍の行動によつて生活をするやうになつて來つゝあることは、空襲時に對する一つの弱點である。即ち空襲時にはさういふ自由な行動が許されなくなる。さうすると生活は非常な變化を來し行き詰つて來る。それで平常から成るべく少い行動によつて生活出来るやうな態勢をつくつて置くことが必要である。生活に必要な各家庭の行動圏が擴大せられて行くことは勉めて抑制しなければならぬ。

第六には神経尖鋭化といふことである。戦時下においては生活の逼迫その他各種の原因により、殊に戦局の推移といふやうな問題も關聯して、人々の神経は非常に尖鋭化して來るものである。さういふ神経の尖鋭化してゐる所

トゲある人となる。

に空襲が行はれる。さうすれば混亂を増大し、各種の問題を惹き起すのであつて、戦時下に於ては努めて國民の神経を尖鋭化せしめない様に諸政策等も考慮すると共に、絶えず神経的訓練を行ひ、非常時に對處して徒らに神経的昂奮混亂を起さぬ様考へて置くことが極めて必要である。

第七には色々の統制實施或は官の指導強化といふことによつて、他力依存の觀念が擡頭して來ることである。現在國民の事業にしても生活にしても、色々政府の統制を受け或は指導を受けて居ることが多い。かういふところから自分ではどうにもならない、一々上のものの指圖に従つてその意の儘に動くより仕方がない、といふやうな氣分が出て來るのである。これは非常時における人の活動を非常に鈍らせ、何でも上のものの指示がなければ動かないといふことになつて來る。寧ろ戦時に於ては、反對に、各個人々々が積極的に活潑な行動をするといふことが、非常に必要なのである。統制といふものは、その個人が思ふ存分活動するのを適當に方向をとつて行く、他との撞著

個人の創意工夫はどこまで
も能動的に發揮せよ。

を避け統合性を發揮させるといふのが本旨でなければならぬが、動もすると統制の履き違へや、之に馴れて來ることなどによつて積極的の活動氣分がなくなり、何でも自分で解決するといふ努力をせず、他力に頼る様になるのである。これは空襲時において行動を不圓滑ならしめ、或は處置を鈍重ならしめるといふやうな結果を招くのである。

第八には官吏に對する不信任の傾向といふことである。戰時においては各種政策の遂行上、中央集權的傾向を取るもので、各種の權限が官吏の手に收められて來る。而も其の實施は種々困難な部面に遭遇し、誰が如何にやつて見ても總てよく出來るといふ譯には行かぬ。かういふことから、動もすると官吏のやり方に對して不平不満を持ち、或はこれに對して信用をしなくなることもあるのである。一度かういふ氣分が出て來ると、非常事態に於ては益々全般の統制ある仕事が出来なくなり、國家の組織的運用が紊れて來る。官民ともに相戒めてかういふ傾向の出て來ることを早く直して置かなければ、

官吏を信頼せよ。

非常時における防衛に對して非常な缺陷を生ずるやうになる。

以上現下特に注意を要すべき事項の若干について述べたのである。固より我國には前にも述べた様に必勝の要素嚴として備はり、戰爭の發展に伴ひ國民の戰意も愈々昂揚せられつゝあるのであるが、他面戰爭の影響が深刻化するに従ひ、迂濶に放置して居ると、このやうな缺陷が現はれて來るのである。これを速かに是正して置くといふことは、空襲時の抗耐力を強めることであり、國土防衛強化の大きな部面なのである。

十一、生産防空を重視せよ

敵の我が國土に對する空襲は、一つには國民の戰意喪失を圖る爲、廣く國民の生活を崩壊させ國民に非常な脅威を與へ恐怖を起させるといふ事で行はれるのであるが、一方大きな目的の一つは國內における軍需生産の低下を圖らんとするにある。軍需生産を低下させ作戦力そのものの培養力をなくしよ

生産防空こそ勝利への近道だ。

家族は家庭を
工場は工場を
内職は内職を
榮ある任務だ

が爲には工場従業員などの不撓の活動が必要なのであるが、此の際従業員●
生活が家庭に繋がつて居ることも忘れてはいけぬ。従業員の家庭の被害が
直接軍需生産に響くのである。ヨーロッパの状況を見ても工場従業員の住宅
が一つの空襲目標にさへなつて居る様である。従業員は家庭の被害に捉はれ
ず職場に活動するの心構へが必要であるが、家庭の人は後の整理を引受けて
従業員を一刻も早く工場に押出してやる事が肝要である。

十一、空襲被害時に處する心構へに注意せよ

空襲があつた場合勿論日頃の準備によつて十分なる防空活動をなし其の被
害を極力防止しなければならぬのであるが、各所に被害の發生することは或
る程度避け得られない。此の場合其の影響を如何なる程度に喰ひ止め得るか
といふことは國民各自の心構へによつて決る。之等の點に就ては既に各方面
に於て云はれて居るので今更めていふべきこともないのであるが、二三特に

注意すべき事項を擧げて見よう。

一、吾々は

陛下の御膝許で戦闘をしてゐるのだ。日本國民の本當の力は今こそ世界に示
すべき秋なのだといふ氣持が出て來なければならぬ。だから見苦しい行動を
してはいかぬ。吾々が三千年來傳統の殉國の大義に生き其の死場所を見せる
のはこゝだ。又われわれ日本人は東亞における指導者である。われわれの行
動は東亞十億の人々がみんな見てゐる。空襲をうけた場合に若しわれわれ日本
國民が少しでもぶざまな行動をすれば直ちに東亞民族指導者たるの資格に
響いて來る。東亞民族は頼るべき所なく失望するであらう。それ程に各個人
の行動は重要さを持つてゐるのである。單に自分の家を護るのだとか、自分
の生命を助かるやうにするのだとかいふ小さなことでなく、以上の様な大き
な氣持が必要だと思ふ。此の意氣を飽く迄旺盛に確保しなければならぬ。

二、勇敢でなくてはならぬが無暴は戒めよ。空襲の時如何にも恐くない

日本人の面目
を發揮せよ

勇を戒めよ

といふ態度で待避壕にも入らず、或は必要の處置も講ぜず呑氣にして居る様なのは決して褒めたことではない。之等は決して勇氣があるといふのではない。之が爲無益な損害を受ける許りでなく、一度危険な状態となると今度は反對に非常に恐怖する様になるものである。旺盛な敢闘精神を發揮して勇敢に活動することは極めて必要であるが、之が爲には常に用心深く出来るだけの防空處置をとらねばならぬ。爆弾が落ちれば誰でも怖いのは當り前で、之を待避したから臆病だとか卑怯だとかいふことはない。寧ろ動搖せず敏速に適切な行動を取り得るものが勇氣があるのである。

三、先づ落着け、不必要に騒ぐな。これは申す迄もないことで空襲の時落着きを失ふといふことは總ての行動を混亂させ、色々の處置に缺陷を起し易い根本の原因である。併しこれは仲々難しいことで、最初から誰にも要求することは出来ぬが、屢々空襲をうけて來れば落着いて來る。此の場合心の持ちやうが肝要で、うつかりしてゐるものは何時迄たつても空襲に馴れて來

心のおちつき
を失ふな。

ないが、常に覺悟があり心得のあるものはすぐ落着きが出来て來る。特に修養しなければならぬ。

四、狀況の不明に不安になつてはいけない。空襲があつた場合流言飛語は必ず出て來る。其の主な原因は狀況が判らず不安になるといふことであるが、空襲をうけた場合必ずしも其の狀況は手にとるやうに判るものではない。しかしこれがために被害などを過大に考へて不安になるといふことは大禁物で、寧ろこの位の空襲なら大したことはない、日本は安泰だといふ氣持を持つことが必要だ。前にも述べた様に我國の防衛力には十分自信が持てるのであるから日本は大丈夫だ、この信念をしつかり持つてをれば狀況不明ならば不明でこれをなるべく寡少の方に見積つて行き、過大に考へないといふことになり、流言飛語も乗ずる隙がなくなるのである。

五、旺盛な敵愾心を出せ。空襲といふものは敵の攻撃をうけてゐるのであるから、投下せられた焼夷弾もこれは敵である、火災が燃え擴がつて來る

取越苦勞は災
害を過大にす
る。

敵襲こそわれ
らが見ゆる唯
一の決戦だ。

烈々たる闘志
を燃え上らせ

指導者に絶対
服従

非常の際には各
人工夫をこら
して國機關
の負擔を軽く
せよ

のは敵アメリカの侵攻である、かういふ氣持から旺盛な敵愾心が起きて來なければならぬ。この敵愾心から總ての勇敢な防空活動も生れ、更に戦争完遂の熱意も燃えて來るのである。空襲を受ければ受けるだけ益々旺盛なる闘志を燃え上らさなくてはならぬ。

六、指導者の指揮には絶対に服従せよ。空襲に於て混亂をまき起すのは人々が勝手氣儘な行動をするからである。多數の人が秩序を保つて行くには指揮者の指導によつて統制ある行動をしなければならぬことは云ふ迄もない。指導者のやり方を批判ばかりして之に服さぬことがあつては混亂は増すばかりである。非常事態には指導の善し悪しは第二とし、とにかく之に絶対服従することが最も肝要である。

七、自分の事は自分でやれ。防空の機關としては警察警防團を始め官民各種のものがあつたり又軍隊の出動などもあるが、併しそれらのものは到底各個人の所まで十分な手は届かない。どうしても自分のことは自分でやるといふ

主義で行かなければならぬ。食糧が足りなくても何とか自分で解決をする、自分の家が焼けたらその焼けた跡の處置は自分でやるといふ氣持が必要で、自分は手を拱いて徒らに防空諸機關に依存するといふやうなことがあつたら空襲後の整理は決して迅速圓滑には出來ぬのである。

八、なるべく速かに戦争に必要な業務に服せ。空襲を受けそれが爲に三日も四日も國內が混亂し作業が停止したとすれば、それだけ日本の戦力は低下するのである。このやうな被害を少くするには、なるべく速かに自分の處置を完了し、又みんなが戦争に必要な業務に早く復歸し、平常通りに仕事が進んで行くやうにしなければならぬ。

九、被害を受けた場合には、自分の準備や活動が不十分であつたといふ事を恥ぢよ。空襲に際し種々自分の周圍に被害が起き、家が焼かれる、死傷が出るといふ状況になれば、動もすれば他の方に對して不平をいひ易いものである。例へば隣組のものがよく協力してくれなかつたとか、警防團の駆け

戦争遂行に必
要な業務にス
グかかれ

人を責むるな
己れを恥ぢよ

つけ方が遅かつたとか、消防は来たけれども他所の方ばかりに注水して自分の家には十分消火の努力をしてくれなかつたとか、さういふことを云ひ出すのである。之は非常な誤りで、若し自分の家に被害を受ければ、これは自分のところに不斷の準備が足りなかつた、自分のやり方が悪かつたといふ風に考へることが必要で、場合によつては自分の家が犠牲になつた爲に附近の工場が助かつたといふこともあり、寧ろ國家に役立つたことを喜ぶ程にもならなければならぬのである。その氣持さへあれば種々被害が起きても思想的な缺陷が出て來ない。之が前に述べたやうな不平に變つて來ると、思想的に危険な状態を呈して來るのである。

一〇、先を争つてはならぬ。空襲時には國民の生活が破壊せられ之が爲に他を押し除けても我勝ちに自分の生活を確保しようと思ふことになり易いのである。之は混亂の大きな原因であり、特に戒めなければならぬ。物の配給でもあると、我先にと先を争ふ。空襲時の生活確保に就ては當局として

人を先にして
己れを後にせよ

も十分準備をして居るので食物の問題にしても貯藏は出來て居る。配給の組織も確立し訓練迄して居るのである。住宅にしても短時間に出來る應急假住宅の準備がある。だから他人より先にといふことで先を争はなくても兎に角待つてをれば解決される。決して路頭に迷ふといふやうなことはない。これは十分確信を持つてゐるので、さうすれば一分とか一時間とか先を争ふ必要はない。寧ろ先を争へば却つて混雜し仕事が遅れるといふことになる。此の點十分考へて置くことが必要である。

一一、平常通りの生活を期待するな。空襲をうけた以上一度や二度食事が出來なかつたり、一日、二日圓滑な物の配給がなかつたり色々不自由な生活をする事があつても、之は當り前だと考へなければならぬ。それを飯も平常通り喰べよう、以前と同じやうな布団に寝よう、立派な部屋に入らうなどと思ふ様な氣持が少しでも残つて居ては、非常な間違ひである。敵と戦闘をして居るのであるから着のみ着の儘で食事もなく野宿をするやうなことも

空襲時は
生活を覺悟せよ

覺悟はして居なければならぬ。さうすれば少しの食物でも又辛うじて露が凌げる狭いバラックでも満足出来るやうになる。それを今迄通りに考へてゐると色々な不平不満が出て来るし、反對に戰場だから二食、三食食べられないものと思つて居れば少しの飯が非常な感謝を以て迎へられ、思想的に強味となるものである。

一二、何れの場合何れの場所でも密集を避けよ。空襲を受け色々な事態が起きると自然に人が色々な場所に集つて来るものである。これは非常に危険であつて、また次の空襲にやられるかも知れないし、またさうでなくとも人が集るといふことは色々な混亂を起し易い。若し人々に若干の不平や不満があつても一人の場合には黙つてゐるが、人が集ればこれが群衆心理的に動き一度點火されると忽ち氣狂状態にもなつて来るのである。人が澤山集るといふことは混亂を生じ精神的に衝動を受けて居る場合には大禁物である。物見高に右往左往して無意味に人が集つて來るといふことは極力戒めなければ

密集は災ひの基

何は措いても
子供を離れ

ならぬ。若しさういふ場合があれば、なるべくそれから遠ざかるといふことが各個人の注意としての必要である。

一三、子供を大切にせよ。大人の方は空襲があつたのだから飯が一日や二日食べられなくても何とでも我慢が出来る。ところが子供は我慢出来るものではない。殊に頑是ない幼児になると仲々取扱ひが六ヶ敷い。而も此の子供の状態は親の行動や氣持を非常に左右するのである。そこで先づ子供の防護を第一に考へなければならぬ。食物も先づ幼児、子供への圓滑な配給に努め、少しでも餘分があり、隣の子供が困つてをれば、これに恵んでやるといつたやうに子供に對しては凡ゆる注意を拂ふといふことが必要である。子供が次代を擔ふ第二の國民であつて見れば其の被害は極力防止しなければならぬし、又色々なことで病氣を惹起するといふやうなことも注意を要する。子供を大切にするといふことは一應みんなが考へなければならぬことである。

一四、大家族主義を活かし相互扶助精神を發揮せよ。空襲時の被害は普

一國一家の
大實を
主義を
家族に
活かせ

遍的なものでなく色々事情を異にするものである。お互ひに援助救済すれば容易に整理がつくのであるが、個々に何とかしようと思つても仲々困難で、被害者は不平不満を抱き國內の弱點を作つて来る。我國は家族主義の國であつて相互援助といふ觀念は昔から發達してゐる。最近かういふ觀念がだんだんなくなつて來つゝあるといふことは注意を要するのであるが、しかし本質的には矢張り家族主義の強い國であつて、また相互援助といふ觀念も強い。そこで空襲を受けた場合には極力この精神を活かさなければならぬ。これによつて國內の運営も支障なく行はれ、秩序も保たれて來るし、各々の不平不満も打消されて來るのである。

十三、空襲の直接被害のない

地域の者の動搖を戒めよ

東京、大阪などの大都市、その他工業上の重要なところが絶えず空襲の目

敵の思ふ壺に
はまるな。

標となり、そこが非常な被害をうけるといふことは當然で、さういふ都市のものは十分これを覺悟し凡ゆる準備を整へて遺憾なく之を衛らなければならぬのであるが、さういふ空襲があつたからとて、直接其の影響のない日本全國が混亂してはならない。東京が空襲せられたからといつて千葉縣も動搖し、神奈川縣も埼玉縣も近縣がみんな騒ぎ出すといふやうなことになるれば全く敵の思ふ壺に入るのである。直接被害のあつたところでは色々な防空活動も必要であるが、さうでないところは、しつかり落着き拂ふといふことが必要なのであつて、田舎のものは落着いて平常通り生業に就いてゐなければならぬ。そして更に被害地の混亂を救ふために凡ゆる協力をする必要がある。衣服食糧の如きものを出来るだけ供給する、罹災者の收容なども引受けなければならぬ。それから東京、大阪といふやうなところの人々には田舎に澤山の親戚縁故者があるのであるが、之等田舎の人々が親類の者の安否を心配し其の消息を如らうと焦り、それがために騒ぎ出し盛んに見舞に行くと

デマは自分の
耳でもみ消せ

いふことになれば混乱は益々擴大して來るのである。靜かに報せを待つてゐるといふ氣持が必要である。又空襲の時には必ずデマが飛んで來る。そのデマに躍らせられないやうに確りした信念をもつて對處して行くことが必要である。かういふ風に色々考へて來ると田舎には防火消火といふ防空でなく、其の特質に應じて協力する方法があるのであつて、何もしないで落ちついてゐることが、却つて日本國全般に協力するといふことにもなるのである。無意味に自分の仕事もしないで騒いでゐるといふことは、寧ろ防衛を妨害してをり敵の思ふ壺にはまつてゐるといふことになる。敵の空襲を受けた時の影響を成るべくその地方だけに止め廣く波及させないといふことが極めて必要なのである。

十四、一億總力を發揮しなければならぬ、

婦人にも重要な役割がある

本家の一人も日
精密機械の重
要部品を以て
要部を自覺
して全を發
揮せよ。

大東亞戦争が一億の總力を結集し各最大能率を上げることによつて始めて完遂出來るといふことは云ふ迄もないのであるが、國土防衛においては特に此の點強調されなければならぬ。隣組に於て一人でも協力しない者があれば、そこに缺陷が生ずる。一人残らず何とかして其の地域や分擔に於て之を護り抜くといふ氣持が溢れて來なければならぬ。勿論各立場々々においてやるべき仕事は違ふのであるが、總てのものが、全能力を發揮するといふことでなければ日本の皇土を護ることは出來ない。殊に婦人の力といふものは非常に大きいことを知らねばならぬ。隣組の活動は婦人が主體になつて居り初期防火の如何は婦人の活動如何に懸つて居る許りでなく今では婦人は各面に於て重要な職域を擔當して居るので空襲下よく其の職場を守るといふことが極めて必要なのである。更に思想方面の支柱として婦人の力を重視しなければならぬ。空襲を受けて生活が破壊せられ之が爲に思想的崩壊を來すといふやうなことは前にも述べたのであるが、かういつた場合その根源をなすも

のとして家庭の婦人が非常に大きな力をなすのである。男は割合精神的訓練も経てゐるし、又積極的活動力を持つて居るものであるが、生活の破壊困難は直接家庭に響いて來るので、動もすれば家庭から悲鳴が擧つて來るのである。家庭に於ける婦人の意志が弱いと之が各種の不平不満を唱へ、悲鳴を擧げ、この氣分が男に傳はつて來る。遂に國內が弱くなつて來るのである。我國の婦人は昔からの傳統によつて相當強い部面があるのでこの點十分信頼はし得ると考へられるのであるが、しかし最近色々の生活部面に現はれて來るところを見れば、買出し、闇、その他デマの流布など相當家庭婦人の間にも色々な問題があることを認めねばならぬ。一層家庭の婦人に確りして貰はねばならぬといふことを申述べたい。空襲を受けた場合家庭の婦人が速かに生活而建て直し又後の事をしつかり引受け自分の夫なり子供なりを一時間でも早く、一日も休みなく早く職場に送り出し元氣をつけて生産に従事させるといふやうなことも必要である。これが反對に家で困るからといつて徒らに勤

務を休ませたり色々心配をかけたりする様であれば生産は止つてしまふのである。婦人は敵アメリカの婦人と生活戦線に於て根氣競べをやつて居るのであつて、戦争遂行上極めて重要な役割を持つて居る。此の點大いに日本婦人の面目を發揮しなければならぬ。

今一つ婦人として考へねばならぬことは母親として子供に對する精神的鍛錬である。子供の保護に最善を盡すべきことは前にも述べた通りであるが、之がため徒らに子供を恐怖させ戦争に對する氣持を歪めてはならぬのである。現在の戦争を戦ひ抜く爲にも又我が國が今後大東亞の中核として重大なる地位を確保する爲にも、我が國民は彌が上にも男々しく逞しくなくてはならぬのであるが、此の氣風は子供の時から養はねければならぬ。空襲下に於てこそ此の氣分は鍛錬せられるのである。徒らに空襲に慌てさせて戦争を嫌厭させたり又は盲目的平和思想を植ゑつけたりせぬことが特に肝要で戦の空氣に益々堅き覺悟と強い意志とを持ち得る様鍛錬することに注意せねばな

子供を戦争に
鍛錬せよ。

らぬ。子供の保護を完全にするといふことも単に子供を安全にするといふだけ
けでなく、徒らに惨烈に曝し戦争に對し恐怖嫌厭の念を起させぬといふこと
にも其の目的が存するのである。之でこそ眞の日本婦人といふべく、深く我
が戦國時代に於ける武士の子弟に對する鍛錬に學ばねばならぬのである。

われらは新く
して皇土を衛
らん。

第三、一億總蹶起皇土の防衛に邁進せん

所謂凄愴苛烈なる戦場の状態といふものは單に前線ばかりでなく、これか
らは皇土そのものに擴がつて來るのである。不斷の大規模空襲而も永きに互
つて之が行はれることも考へねばならぬ。これに對し、われは絶対に敵
に屈してはいかぬ。國土の防衛態勢も一日凌ぎではいかぬ。半永久的に持ち
耐へて行けるやうにして置かねばならぬし國民は叩かれれば叩かれるだけ益
々強くなつて行くといふことでなければならぬ。叩かれるに従つて萎縮する
やうであればこの戦争の結果も危ないことになる。大東亞戦争今後の推移と
してはアメリカは飽く迄積極的に攻撃して來る。アメリカは我國に對し其の
不敗でないといふことを知らせるのだと云つて居る。吾々はアメリカの攻撃
に對し不敗であるといふことを知らせなければならぬ。我が皇土にはアメリ

カの齒が立たぬといふことを悟らせなければならぬ。之が爲には敵の攻撃が加はるに従ひ益々反撥するといふ氣持が出て來なければならぬ。早く戦争が終つてくれなければなどといふ氣持は大いに戒めなければならぬ。今こそわれれく大和民族は三千年來の宏謨實現に邁進しつゝあるので、之が爲に非常な試練を受けつゝある。此の苦難は生成發展する皇國民の當然甘んじて受けなければならぬところであつて、若しも我が國是たる八紘爲宇の大事業なり、或は今差當りの目標としてゐる大東亞共榮圈の確立が現在程度の苦難で完成するとすれば、これは僥倖といふより外はない。大東亞共榮圈の確立、アメリカの侵略意志を放棄させるといふやうなことの爲には人並ならぬ苦難があることは當然なので、この苦難によつて、はじめて大東亞共榮圈は確固たるものとなり、永久にその光を放つことになる。若し大東亞戦争が簡単に片付き、大東亞共榮圈が安易に出來たとすれば、將來アメリカは必ず反撃して來るであらうし、又さういふ場合には安易に成立したものだけに國民は手易く

この位の苦勞
大東亞共榮
圈の確立
東亞共榮
東亞共榮

苦難の多い
生甲斐が
ある。生甲
斐が

これを手放すやうにもなるのである。われれくが血みどろになつて築き上げたところの大東亞共榮圈であれば將來如何なるアメリカの反撃があるとも絶對に之を護り抜くといふ氣持が出て來る。われれく個人の場合に於ても膏壯年時代の所謂働き盛りといふものは最も勞苦の多い時期である。しかしそれはその人間の最も華々しい時代なので、此の華々しい時代が過ぎ、隱居でもしようといふ時には既に人生は終りに近づきつゝあるのである。民族の隆替も同様であつて、吾々が現在のやうに非常に激しい活動をしてゐる時期は吾々の輝かしい時代なのだといふことが考へられる。現在の苦難は吾々としても最も生甲斐のある時代に於て最も輝かしい活動をなして居ることを樂しまねばならぬのである。我國は天佑を保有し、不滅の國體、神聖なる皇土を基として彌榮え行くのではあるけれども、國民の努力苦難を伴はずして之を期待することは出來ないのである。今次アメリカとの戦争も或はある程度で媾和になるといふこともあるかも知れない。しかしアメリカが屈服してしま

ひ、今後永久に大東亞に對して何等の妨害も加へない、侵略意志を放棄するといふ状態になる迄にはまだ、將來があるのであつて、恐らく大東亞戦争がある形で終つたとしても、アメリカは依然として残り、必ず日本に對し大東亞に對し、再び侵略をして來るであらう。アメリカが襲ひかゝつてくれば吾々はまた之を迎へ撃たねばならぬ。さうして幾度かアメリカの野望を挫き、それではじめて大東亞は永久に固くなるのであつて、之が爲には將來何年かゝるか分らぬのである。日米間の本當の長期戦はそこ迄考へなければならぬ。今次の大東亞戦争が後二年續くとか三年續くとかいふやうなことは問題でもなくなるのである。ヨーロッパに於ける獨佛といふものは、何百年間に互り争闘を續けてゐる犬と猿との間柄で、勝つたり、敗けたり幾度か兩民族は戦争をして居る。時には平和状態といふ形の時もあつたが、暫くするとまた戦争がはじまる。遂に今度のやうにフランスが潰れるといふことになつた。獨逸は最後の勝利を得たのである。日本とアメリカとの間もそこ迄考へ

大東亞戦争は、
返して云ふ
徹底的長期戦
である。

て行く必要がある。現在の戦争でも終ればまた昔のやうな状態になると考へたり、或は戦争が終つた後はどうなるかといふやうなことを心配して、現在の戦時生活、或は軍需生産などに十分なる頭の切り替へが出来なかつたりするといふやうなものはない。併しそれはいまのやうなことを考へて見ればはつきり判る事で、假令此の戦争が之から二年、三年で終つたとしても、アメリカが野望を完全に放棄する迄は飽く迄戦争態勢を確保しなければならぬので、現在の戦争生活といふものは恐らく今後永く續くものと十分覺悟しなければならぬのである。國土防衛もかういふ事を考へると、今の戦争ばかりでなく、更に將來に於ける戦争の事も考へなくてはならぬ。將來に於ては國土空襲は益々烈しくなる。徹底的空襲と之に對する徹底的防衛とが戦争の主體となるのであらう。之が爲には國民は土の下に潜らなければならぬ。地下都市も出来ねばならず、主要な工場も地下に建設し、國防的な計畫の下に強靱な國土態勢が整へられなければならぬ。現在は差當りの空襲に對

國土防衛は將
來迄も考へ
よ。

する防空と共に一方將來を考へてのさういふ態勢を整へる準備時期とも考へなくてはならぬ。今の時期から此の着想で空襲を受けながらもさういふ態勢をぐん／＼つくつて行けば次代の戦争に對する準備は着々出來て行くことになる。

現在の戦局が極めて重大であるといふことは誰にも考へられて居る所であるが、之が爲に不安に驅られ、敗戦感に捉はれるやうなことがあつては今後の戦争完遂は覺えない。假令東京が焼野原にならうとも、吾々は各地に疎開して飽く迄戦争を續けるであらうし、アメリカ軍が我が皇土に上陸でも企圖すれば水際に之を迎へて撃滅するであらう。最後には皇土に籠城し、一億皇土と共に玉碎するの決意を以て幾年でも抵抗し、之によつて結局アメリカをして侵攻企圖を放棄せしめる。此處迄の覺悟を持てば現在の様な戦局に毫も一喜一憂することはないのである。況して之を今次の戦争に於けるヨーロッパの情勢に引き較べて考へるならば、吾々は更に泰然として戦ひ得る確信を

たとへ東京が
焼野原と化し
ても吾々は戦
ふ。

一億玉碎の決
意。

ヨーロッパ
にみる各國の
危機隣國の戦

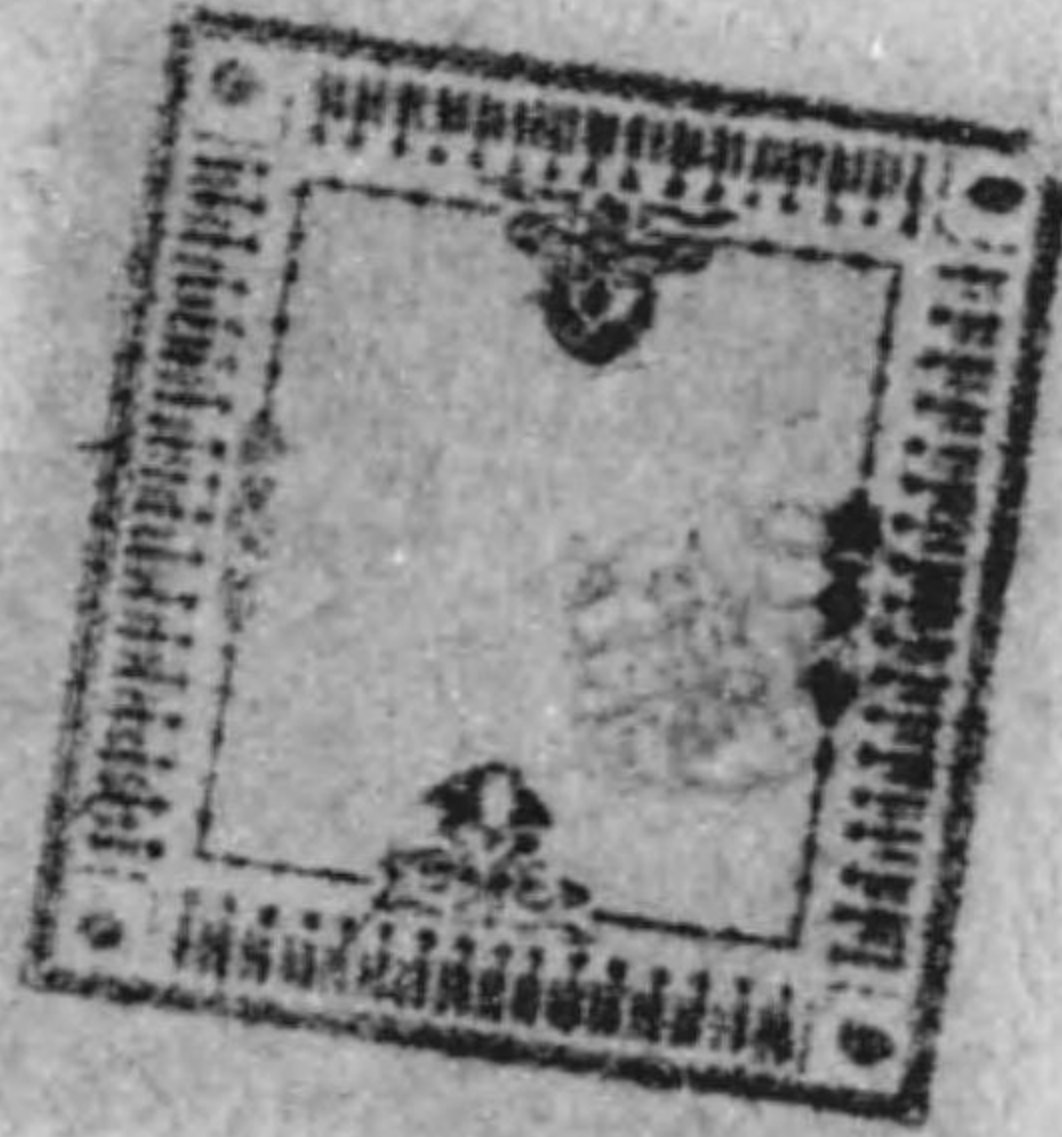
固め得る。歐洲戦争のはじめ英國はヨーロッパ大陸に派遣してをつた軍隊を獨逸に叩かれ、彼のダンケルク敗戦を招いた。次いでロンドンに空襲に脅かされ、獨逸軍はドーバー海峡の彼方迄押し寄せ、英本土は將に上陸攻撃をうけやうといふ状態になり英國内は極度の不安に陥つたのであるが、英國は頑として踏み耐へ今のやうに盛り返してゐる。ソ聯邦も亦同様で、獨ソ戦の當初獨逸破竹の勢に壓迫せられ首都モスコは危険に瀕し、レニングラード亦敵の壓迫を受けて、レニングラードは其の後二年に亘り包圍下にあつたのであるが、しかしソ聯邦は動搖することなく、着々戦力を恢復し現在のやうな逆襲をやつてゐるのである。更に獨逸に就て現在に於ける態勢を二年前の状態に比べて見れば、戦局の困難になつてゐるといふことは否むことは出來ぬ。南の方に於てはアフリカに進出し遠くカイロの近く迄進撃してゐたのであるが、遂に撤退の已むなきに至り地中海亦敵の手に入り、更に敵の軍隊はイタリア半島に上陸してゐる。東の方においては將にスターリングラードを

止め得るのである。處が逆にこの生産が遅れば敵の空襲は十分抑へることが出来ず、工場のうける被害は増加して生産の低下率 大となり悪循環することとなるので、生産は其の頂點に達しようとして遂に頂點に達し得ず、頭を上げようとするところを抑へられる、といふことに迄なるかも知れないのである。これは非常に警戒を要するのであつて、かういふ意味から飛行機増産は一日も早くやらなければならぬ。そして一日も早く頂點に達しなければならぬのである。一機でも早く増産に力は入れられてゐるけれども、この一機も早くといふことは第一線で敵航空機に對抗せんが爲補備的に破綻を補ふやうな意味でのみ考へて居てはならぬのであつて、いま述べたやうな大局的意味で我が飛行機増産全能力を一日も早く引上げるといふことになければならぬ。これが一日早ければ早い程敵の空襲に對して強くなり、一日遅ければ遅い程逆に弱點を累加して來るといふことになるので、敵の空襲の來ない間に生産を最大限ならしめる様に生産速度の増加を圖らねばならぬ。

飛行機増産力
の最大限まで
昇が一日早く
れば一日の強
味

ぬ。生産の増強亦主要な國土防衛の一環をなして居るのである。吾々の苦難は今後愈々加重せられるであらうが、敵米英も亦苦惱の極にあるのである。今や世界の各國民は一樣に苦しみの渦中にあつて烈しい意志の闘争をなして居る。そして其の勝敗は實に最後の五分間に於て決する。吾々は最後の瞬間、最後の一人に至る迄戦ひ抜き、以て有終の美を收めねばならぬ。皇土防衛の要亦此の決意、此の強靱性の外にはないのである。

最後の一人まで
戦ひぬく決意
を固めよう



出版會承認番號う二八〇〇四號
 昭和十九年十一月二十五日初版印刷
 昭和十九年十一月初版發行

(五〇,〇〇〇部)

我等は斯くして皇土を徇らん

定價 金八〇錢

特別行爲稅相款額 八錢

合計 金八八錢

著者 加藤 義 秀

發行者 山 形 始

東京都芝區新橋四丁目四番地

印刷者 佐藤 慶

東京都小石川區柳町二六

發行所 文松堂出版株式會社

東京都芝區新橋四丁目四番地
 出版會會員番號 110072番
 電話芝四七八三・四八二二
 郵替東京八〇四七六番

配給先

日本出版配給株式會社
 東京都神田區淡路町二ノ九

(東京470) 昭文堂印刷所印刷

中村中正堂製本

1002
E
85



費價(税込).88